「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」の
実現を目指して

第６次高浜市総合計画

基本計画【前期】の総括

〔平成 23 年度～25 年度〕

平成 26 年８月
高　浜　市

目　　次

1．はじめに

（1）基本計画【前期】の総括にあたって　・・・・・　2ページ

（2）基本計画【前期】の体系　・・・・・　4ページ

（3）基本計画【前期】の総括の進め方　・・・・・　8ページ

2．「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」の結果

（1）基本計画の施策に対する「市民意識調査」結果　・・・・・12ページ

（2）「みんなで目指すまちづくり指標」一覧　・・・・・14ページ

3．基本計画【前期】の総括

（1）総括の見方　・・・・・18ページ

（2）総括

Ⅰ．みんなで考え　みんなで汗かき　みんなのまちを創ろう

目標(1)　市民とともに歩む経営を行います　・・・・・20ページ

目標(2)　次世代のために、健全な財政運営を行います　・・・・・22ページ

目標(3)　市民と行政が信頼関係を深め、ともにまちづくりを行います　・・・・・24ページ

Ⅱ．学び合い　力を合わせて　豊かな未来を育もう

目標(4)　学びを通して人づくりを進め、夢と希望につなげます　・・26ページ

目標(5)　心たくましく健やかに育つ教育環境を作ります　・・・・・28ページ

目標(6)　人のつながりやぬくもりの中で、子育ち・子育てを支えます　・・・・30ページ

Ⅲ．明日を生み出すエネルギー　やる気を活かせるまちをつくろう

目標(7)　まちの成長を支えるエンジンとして、産業を元気にします　・・・・・32ページ

目標(8)　地域に根ざした新たなビジネスの芽を育みます　・・・・34ページ

目標(9)　みんなでまちをきれいにします　・・・・・36ページ

目標(10)　ハーモニーを奏でる快適な都市空間をつくります　・・38ページ

目標(11)　自然豊かな魅力あふれる憩いの場を守り、育てます　・・40ページ

目標(12)　安全・安心が実感できる基盤づくりを進めます　・・42ページ

Ⅳ．いつも笑顔で健やかに　つながり 100 倍ひろげよう

目標(13)　一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます　・・44ページ

目標(14)　一人ひとりの元気と健康づくりを応援します　・・・46ページ

4．前期から中期につなげていくために

（1）前期から中期につなげていくために　・・・・・49ページ

5．参考資料

（1）基本計画【前期】の進行管理体制　・・・・・62ページ

（2）「第6次高浜市総合計画推進会議」のあしあと　・・・・・64ページ

（3）行政による「総合計画推進会議」3年間の振り返り　・・・・・70ページ

1

はじめに

（１）基本計画【前期】の総括にあたって

■総合計画とは

✧ 総合計画は、高浜市が行う全ての政策・施策・事業の根拠となる最上位の行政計画、市政運営の根幹となる計画で、将来を見通しつつ、時代の変化や課題に的確に対応していくために、「こんなまちにしていこう！」というまちづくりの目標を掲げ、その実現に向けて必要な取り組み内容を盛り込み、みんなで力を合わせて高浜市をつくっていくための「まちづくりの設計図」です。

✧ 第６次高浜市総合計画は、平成 23 年度から平成 33 年度を計画期間とし、「基本構想」「基本計画」「アクションプラン」で構成しています。

① 基本構想

✧ 長期的な展望に立ち、総合的・計画的にまちづくりを行う指針となるもので、将来都市像やまちづくりの基本目標など、市の政策の方向性を定めます。
【計画期間】平成 23 年度（2011）～平成 33 年度（2021）

② 基本計画

✧ 基本構想を実現するため、まちづくりの目標に対する現状と課題、課題解決に向けた目指すべき姿や目標値、それらを達成するための具体的な手段等を示します。
✧ 時代の変化やまちづくりの課題に的確に対応していくため、計画期間を前期・中期・後期の３区分とし、見直しを行った上で中期計画・後期計画を策定します。
【計画期間】前期：平成 23 年度（2011）～平成 25 年度（2013）
中期：平成 26 年度（2014）～平成 29 年度（2017）
後期：平成 30 年度（2018）～平成 33 年度（2021）

③ アクションプラン

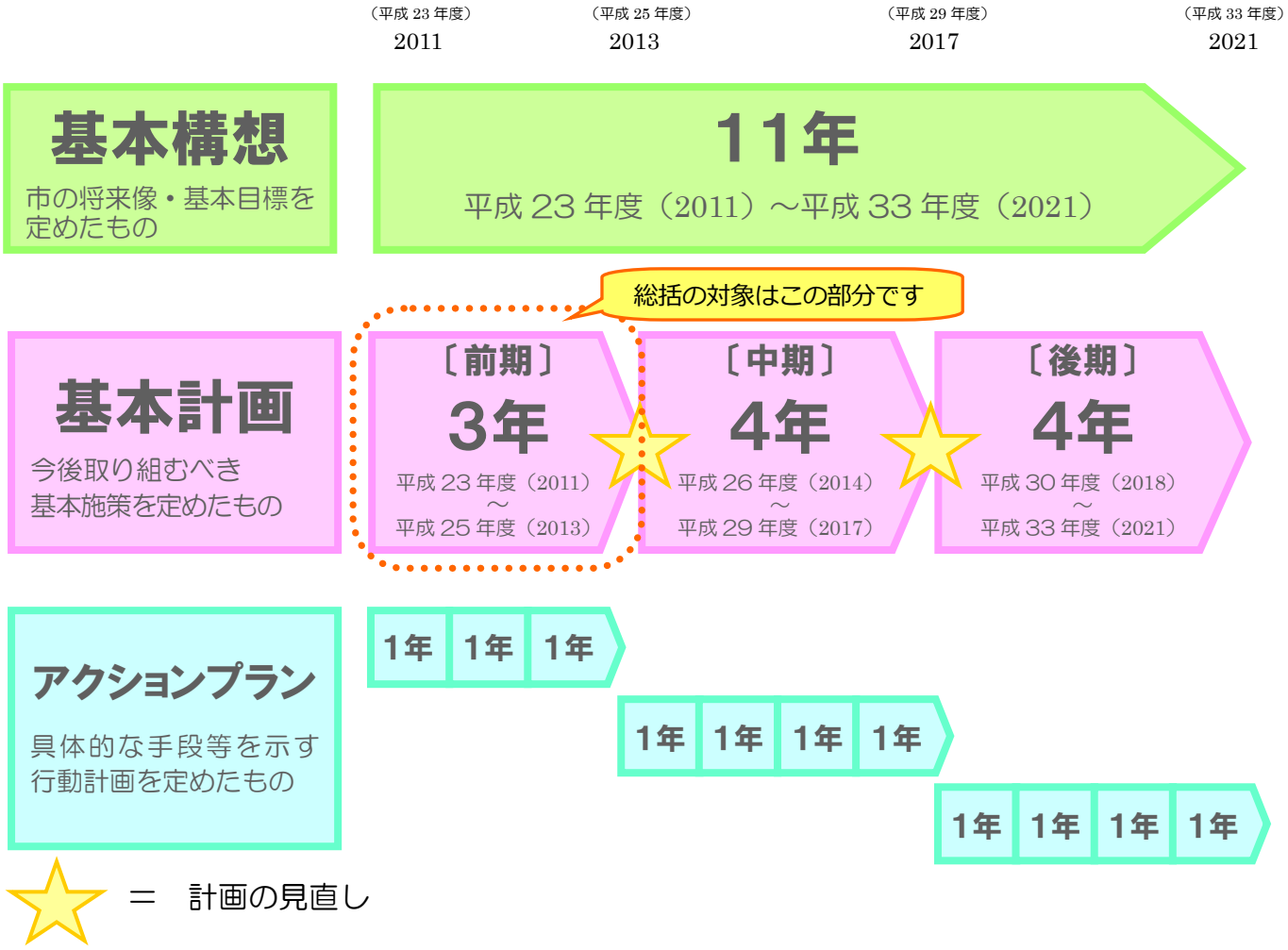
✧ 基本計画に掲げた目指すべき姿、目標値の達成に向けて、具体的な事業内容を示す行動計画で、毎年度の予算編成の指針とします。
✧ 目標の達成度を毎年度点検・検証し、その結果を改善策に結び付けます。

■総括のねらい

✧ 将来都市像「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」の実現に向け、第６次高浜市総合計画がスタートして３年が経過。平成 26 年３月に基本計画【前期】の計画期間が満了し、４月から基本計画【中期】へと歩みを移しています。

✧ そこで、前期３年間の取組みや目標の達成状況を振り返り、取組みから見えてきた課題や社会経済情勢の変化等に伴って生じている新たな課題にはどのようなものがあるかを洗い出し、それらを中期期間中にどのように解決していくのか、課題をしっかりと次へとつなげ、解決に向けて実行していくために、「基本計画【前期】の総括」を行います。

【総合計画の構成と期間】



（２）基本計画【前期】の体系

基本計画【前期】は、基本構想に定めた将来都市像「思いやり 支え合い 手と手をつなまでに、市民・地域・事業者・関係機関・行政が協働して取り組むまちづくりの方向性やための具体的な方策・手段（こんなことに取り組みます）を 66 本掲げました。★印はマ

都市像	基本目標	目標	
思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま	Ⅰ. みんなで考え みんなで汗かき みんなのまちを創ろう	**（１）市民とともに歩む経営を行います**	
		指標１：目指すまちの姿である「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」を知っている人の割合 指標２：総合計画の評価や進行管理に参加したことがある人の数	★総合計画の進行管理に行政評価シ ☆行政が実施していることを市民に ☆市民ニーズに基づいた経営を行う
		（２）次世代のために、健全な財政運営を行います	
		指標１：将来負担比率 指標２：市の財政状況に関心を持っている人の割合	★事業の見える化やムダの削減を行 ★予算編成のプロセスや財政状況な ★公共施設の今後のあり方を市民と ☆財政計画に基づき、施策・事業の ☆市民サービスの向上につながるも ☆行うべき仕事にあわせて組織を構
		（３）市民と行政が信頼関係を深め、ともにまちづくりを行います	
		指標１：「高浜市自治基本条例」を知っている人の割合 指標２：地域活動に参加したことがある人の割合 指標３：地域活動に参加している職員の割合	★「高浜市自治基本条例」に基づい ★地域の「どうしよう？」を解決し ★限られた財源を地域で有効活用す ☆新たな自治の仕組みづくりのため
	Ⅱ. 学び合い 力を合わせて 豊かな未来を育もう	**（４）学びを通して人づくりを進め、夢と希望につなげます**	
		指標１：高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合 指標２：将来の夢を持っている子どもの割合	★「高浜市生涯学習基本構想」を策 ☆地域・学校・事業者・関係機関と ☆夢やロマンを語ることができる、 ☆地域スポーツを通じて健やかな心 ☆地域の良さ（歴史、文化、伝統、
		（５）心たくましく健やかに育つ教育環境をつくります	
		指標１：毎日をとても楽しいと感じている子どもの割合 指標２：学習に積極的に取り組む子どもの割合 指標３：過去１年間に地域行事、ボランティア活動に参画した子どもの割合	★高浜市の教育のあり方を示し、教 ☆子どもの学力、体力、心の成長と ☆家庭の教育力を高めるために、学 ☆子どもが主体となって地域活動に ☆幼保小中一貫教育を視野に入れて
		（６）人のつながりやぬくもりの中で、子育ち・子育てを支えます	
		指標１：子どもを産み、育てやすいと感じている人の割合 指標２：子どもとふれあう行事に参加したことがある人の割合	★地域の人たちと交流したり、異年 ★「たかはま子育ち・子育て応援計 ★子どもを取り巻く人や地域、専門 ★中学校卒業までの子どもの医療費 ☆子どもの思いを理解し、子どもの ☆個々の実情に応じた相談体制や各

ぐ 大家族たかはま」を実現するため、平成 23 年度（2011）から平成 25 年度（2013）目標を示したものです。目指すべき姿（個別目標）を 14 目標、目標値や目標を達成するニフェスト事業です。

こんなことに取り組みます（目標達成のための手段）
ステムを導入し、市民とともに、総合計画の実行、評価を行います。 わかりやすくお知らせします。 ため、市民意識調査などを実施し、多様な参画機会を創ります。
うため、事業仕分けの手法を活用します。 どを「わかりやすい予算書」などにとりまとめ、市民にわかりやすくお伝えするとともに、考えることができる環境を整えます。 ともに考えます。 実施にあたっては、緊急度や必要性などをもとに優先順位をつけるなど、メリハリのきいた予算編成に取り組みます。 のについては、国・県・近隣市などをはじめとした関係機関との広域的な連携を行います。 築し、目標を実行・達成するための体制を整えます。
た自治の仕組みをわかりやすく示し、まちづくりの中で活用します。 、「こうしたい！」という想いを実現するための仕組みとして「市民予算枠事業」を行います。 るため、「まちづくり総合交付金制度」の導入を検討します。 、市民力、職員力アップに取り組みます。
定し、「学習したい」「活動したい」という想いを応援します。 の連携により、市民に学ぶ喜びや楽しさ、ものづくりの素晴らしさを伝えます。 未来に羽ばたく人材を育てます。 と身体を作り、市民交流の場を充実します。 産業等）を学び合い、愛着と誇りを高めていくため、地域学（高浜学）を立ち上げます。
育施策を総合的に進めていくための指針として、「高浜市教育基本構想」を策定します。 、教師力の向上を目指し、幼保小中が一貫した高浜市独自の教育カリキュラムについて研究します。 習機会と啓発活動を充実します。 参画できる環境をつくり、家庭・地域・学校との交流を活性化します。 、地域の総合的な教育環境の向上に努めます。
齢の子どもと遊んだり、学んだりすることによって、子どもの自主性・社会性を育む居場所を拡充します。 画」（次世代育成支援対策地域行動計画）に基づき、利用者のニーズを反映した保育サービスを提供します。 機関などをつなぐネットワークを構築し、地域力を強化しながら、子育ち・子育てを支援します。 の無料化を継続します。 目線にたって、成長を支援できる大人を増やす取り組みを行います。 種講座を充実させ、子どもが健やかに育つ環境を整えます。

都市像	基本目標	目標	
思いやり　支え合い　手と手をつなぐ　大家族たかはま	Ⅲ. 明日を生み出すエネルギー　やる気を活かせるまちをつくろう	**（７）まちの成長を支えるエンジンとして、産業を元気にします**	
		指標１：製造品出荷額等 指標２：小売商店の店舗数 指標３：組織化・法人化した農業者団体の数 指標４：企業誘致制度を利用した件数	★地域経済の振興を図るため、企業 ★時代に即した地場産業への支援を ★経営基盤、技術競争力の強化を目 ★安定的な農業経営に向けての支援 ★公共工事や物品の調達について、 ☆三州瓦産地の伝統の継承のため、 ☆誰もが働きやすい仕組み・環境を ☆市内での消費が促進されるように
		（８）地域に根ざした新たなビジネスの芽を育みます	
		指標１：コミュニティ・ビジネスの事業数（試験的運営含む） 指標２：まつり、イベントの来場者数（年間）	★コミュニティ・ビジネスの創出に ☆地域・事業者・関係団体と連携し
		（９）みんなでまちをきれいにします	
		指標１：日ごろから省エネや省資源など環境に配慮した生活をしている人の割合 指標２：１人１日あたりの家庭系ごみ排出量 指標３：環境美化推進員の人数	★「高浜市みんなでまちをきれいに ★環境に配慮した街灯・防犯灯・公 ☆「高浜市ごみ処理基本計画」に基 ☆地域・学校・事業者・関係機関と
		(10)ハーモニーを奏でる快適な都市空間をつくります	
		指標１：長く住み続けたいと思う人の割合 指標２：歩きやすい、運転しやすいと感じている人の割合	★衣浦大橋東交差点の立体化により ☆「高浜市都市計画マスタープラン ☆安心で快適な住環境やライフライ ☆安全・快適・便利に移動できるよ
		(11) 自然豊かな魅力あふれる憩いの場を守り、育てます	
		指標１：公園・緑地、街路樹や水辺空間づくりに参加したことがある人の割合 指標２：公園をよく利用する人の割合	★衣浦湾の自然環境を保全し、海浜 ☆「高浜市緑の基本計画」に基づき
		(12) 安全・安心が実感できる基盤づくりを進めます	
		指標１：地震の備えができていると感じている人の割合 指標２：街頭犯罪発生件数（年間） 指標３：交通事故発生件数（年間）	★災害等の緊急事態が発生した場合 ★地域全体が連携できるように実践 ☆事故・事件を未然に防ぐとともに ☆地域や警察、関係機関と連携しな ☆地域と連携して、防犯灯などの防 ☆治水対策や耐震化など、災害に強
	Ⅳ. いつも笑顔で健やかにつながり100倍ひろげよう	**(13)一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます**	
		指標１：ボランティアひろばセンター登録数（人口１万人あたり） 指標２：不安や悩みごとを身近に相談できる人や場所があると思っている人の割合 指標３：地域で高齢者や障がい者等の見守りや生活の手助けをしている人の割合	★子どもの育ちを一貫して見守り、 ★チャレンジドの「働きたい」の実 ☆「高浜市地域福祉計画」に基づき ☆地域や当事者などが連携して福祉 ☆手助けが必要な人に対して、地域
		(14) 一人ひとりの元気と健康づくりを応援します	
		指標１：日常的に運動やスポーツを行っている人の割合 指標２：栄養や食生活に気をつけている人の割合 指標３：かかりつけ医を持っている人の割合	★「シニア大学」などの学習の機会 ★地域密着型施設など、高齢者の実 ☆「健康たかはま２１」に基づき、 ☆健康づくり推進委員や地域の様々 ☆生涯を通じて健全な食生活を実践 ☆医療機関それぞれの役割分担のも

こんなことに取り組みます（目標達成のための手段）
誘致を積極的に進めます。 行います。 指す“がんばる事業者”（中小企業者）への支援を行います。 を行います。 市内業者が入札に参加しやすい環境を整えます。 基盤づくりや販路拡大、多面的な利活用に向けた支援を行います。 整えます。 、関係機関との連携を深めながら、事業者の魅力を引き出すような啓発活動を行います。
向けて、ＰＲ及び支援を行います。 ながら、地域資源を掘り起こし、磨きをかけることによって、高浜市の“自慢”を育て、様々な手法によって発信します。
しよう条例」を推進します。 園灯を設置します。 づき、ごみの減量化に取り組みます。 連携した環境美化活動、環境保全活動を積極的に進めます。
、交通の円滑化と安全対策の向上を進めます。 」に基づき、地域の特性に応じた土地利用や魅力ある景観づくりを進めます。 ンの整備を進めます。 う交通網を整えるとともに、公共交通の利用も促進します。
レクリエーションの場として、高浜緑地の整備を進めます。 、地域と連携しながら、特性を活かした公園・緑地、街路樹や水辺空間の整備・保全を行います。
に、全市をあげて迅速かつ総合的に対応する危機管理体制を整えます。 に即した防災ネットワークづくりを進めます。 、発生後に適切な対応を行うことができるよう、情報収集に努め、正確な情報を迅速に発信します。 がら、防犯活動や交通安全の啓発を行います。 犯施設やカーブミラーなどの交通安全施設の適切な維持管理を行います。 い基盤整備を進めます。
支援するため、こども発達センターを関係機関と連携して設置します。 現に向け、支援体制を整えます。 、「つながり、支えあい、安心のしくみづくり」を進めます。 イベントを創出するなど、福祉に対する理解を広く促進するとともに、顔が見える関係づくりを行います。 や関係機関と連携して、各々の事情に合った適切な支援や相談を受けられる体制を整えます。
の提供や、高齢者の健康づくりやボランティア活動に対する新たな支援制度を構築し、生きがいと健康づくりを応援します。 態を踏まえた介護サービスを提供します。 市民一人ひとりのライフステージに応じた一次予防や要介護対策、健康づくりを進めます。 な団体が推進役となって、ウォーキング、健康体操・運動、講座といった地域での健康づくり活動を広げます。 し、自らの健康を守るため、学校や地域などあらゆる場所や機会を通じて、食育を推進します。 と、連携を促進し、地域医療体制を充実します。

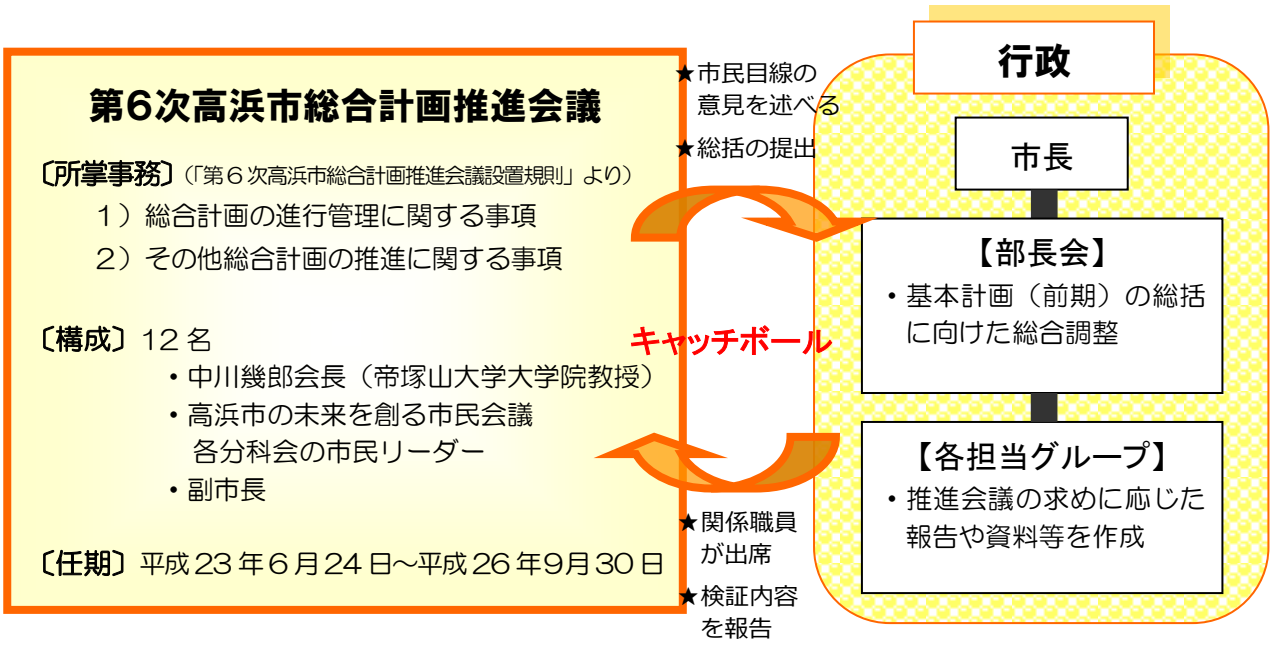
（３）基本計画【前期】の総括の進め方

✧ 基本計画【前期】の推進にあたっては、「絵に描いた餅にならないように、生きた総合計画にしていこう！」「目標達成に向けて、みんなで考え、みんなで行動していこう！」といった市民の皆さんの策定時の想いをしっかりと受け止め、掲げた目標に向かって着実に前進するために、PDCA サイクル*を組み入れました。市民や学識経験者で構成する「第６次高浜市総合計画推進会議」やその作業部会である「高浜市の未来を創る市民会議」とともに、目標達成状況の点検・確認、事業の見直し・改善に向けたアイデアを出し合うとともに、目標の達成に向けた取組みについても、多くの市民と行政が力を合わせながら進めてきました。

＊「PDCA サイクル」・・・計画（Plan）し、実行（Do）し、その結果を評価・検証（Check）し、改善策や次の施策に活かしていく（Action）こと。

✧ そうした推進経緯を踏まえ、総括にあたっては、行政の各担当部署において前期で掲げた目標の達成状況等について検証を行った後、「第６次高浜市総合計画推進会議」において検証内容を発表。行政の検証内容を市民目線で点検・確認していただくとともに、中期の取組みにつながるアイデアなどを述べていただき、「基本計画【前期】の総括」としてとりまとめました。

総括の体制



■前期から中期へ　～課題を次へとつなげ、着実に実行していくために

平成 23 年度
～
平成 25 年度

基本計画【前期】の推進

【PLAN】　基本計画を踏まえたアクションプランの策定

【DO】　目標・目指す姿の実現に向けた取組みを、市民とともに実行

【CHECK】　目標の達成状況を市民とともに点検・確認

【ACTION】　点検・確認結果を踏まえ、市民とともに改善策を検討

平成 26 年
2～8月

前期３年間の振り返り「総括 とりまとめ」

【CHECK】　「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析（要因・課題等）

✧ 市民意識調査結果や指標の推移等を踏まえ、指標（目標）が達成できた要因（達成できなかった要因）などを分析

【CHECK】　「目標達成のための主な取組み」

✧ 掲げた目標の達成に向けて、３年間でどんなことに取り組んできたのか、主な取組内容を振り返る。

【ACTION】「課題と今後の取組みの方向性」

✧ 前期の取組みから見えてきた課題について、中期において、どのようにして解決していくのかを整理する。

平成 26 年
7～8月

「第６次高浜市総合計画推進会議」による点検・確認

平成 26 年８月

「総括」を公表

基本計画【中期】の推進に反映

■総括 とりまとめ部署 一覧

◎＝とりまとめグループ

＜基本目標Ⅰ＞

みんなで考え
みんなで汗かき
みんなのまちを
創ろう

目標（1）市民とともに歩む経営を行います
◎企画部　総合政策グループ
　総務部　財務グループ
目標（2）次世代のために、健全な財政運営を行います
◎総務部　財務グループ
　総務部　行政グループ
　企画部　総合政策グループ
目標（3）市民と行政が信頼関係を深め、ともにまちづくりを行います
◎企画部　総合政策グループ
　企画部　人事グループ

＜基本目標Ⅱ＞

学び合い
力を合わせて
豊かな未来を
育もう

目標（4）学びを通して人づくりを進め、夢と希望につなげます
◎こども未来部　文化スポーツグループ
目標（5）心たくましく健やかに育つ教育環境をつくります
◎教育委員会　教育センターグループ
目標（6）人のつながりやぬくもりの中で、子育ち・子育てを支えます
◎こども未来部　こども育成グループ
　こども未来部　文化スポーツグループ
　市民総合窓口センター　市民窓口グループ

＜基本目標Ⅲ＞

明日を生み出す
エネルギー
やる気を活かせる
まちをつくろう

目標（7）まちの成長を支えるエンジンとして、産業を元気にします
◎都市政策部　地域産業グループ
　都市政策部　企業支援グループ
　総務部　財務グループ
目標（8）地域に根ざした新たなビジネスの芽を育みます
◎都市政策部　地域産業グループ
目標（9）みんなでまちをきれいにします
◎市民総合窓口センター　市民生活グループ
　都市政策部　都市防災グループ
目標（10）ハーモニーを奏でる快適な都市空間をつくります
◎都市政策部　都市整備グループ
　都市政策部　上下水道グループ
　市民総合窓口センター　市民生活グループ
目標（11）自然豊かな魅力あふれる憩いの場を守り、育てます
◎都市政策部　都市整備グループ
目標（12）安全・安心が実感できる基盤づくりを進めます
◎都市政策部　都市防災グループ
　都市政策部　都市整備グループ
　都市政策部　上下水道グループ

＜基本目標Ⅳ＞

いつも笑顔で
健やかに
つながり 100 倍
ひろげよう

目標（13）一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます
◎福祉部　地域福祉グループ
　福祉部　介護保険・障がいグループ
　福祉部　福祉まるごと相談グループ
　福祉部　保健福祉グループ
目標（14）一人ひとりの元気と健康づくりを応援します
◎福祉部　保健福祉グループ
　福祉部　生涯現役まちづくりグループ
　こども未来部　こども育成グループ

2

市民意識調査 みんなで目指す まちづくり指標 結果

（１）基本計画の施策に対する「市民意識調査」結果

目標	計画策定時の値（平成 22 年）	実績値			3年間の伸び率
		（平成 23 年）	（平成 24 年）	（平成 25 年）	
（１） 市民とともに歩む経営を行います	46.4%	51.8% ↗	53.1% ↗	56.3% ↗	9.9%
（２） 次世代のために、健全な財政運営を行います	36.1%	40.3% ↗	43.6% ↗	46.3% ↗	10.2%
（３） 市民と行政が信頼関係を深め、ともにまちづくりを行います	46.7%	49.9% ↗	55.0% ↗	58.1% ↗	11.4%
（４） 学びを通して人づくりを進め、夢と希望につなげます	45.4%	47.1% ↗	54.1% ↗	55.0% ↗	9.6%
（５） 心たくましく健やかに育つ教育環境をつくります	45.5%	48.3% ↗	54.6% ↗	54.5% ↘	9.0%
（６） 人のつながりやぬくもりの中で、子育ち・子育てを支えます	48.9%	53.8% ↗	60.8% ↗	60.9% ↗	12.0%
（７） まちの成長を支えるエンジンとして、産業を元気にします	17.7%	21.7% ↗	21.9% ↗	25.6% ↗	7.9%
（８） 地域に根ざした新たなビジネスの芽を育みます	16.2%	19.1% ↗	20.1% ↗	23.7% ↗	7.5%
（９） みんなでまちをきれいにします	58.6%	61.6% ↗	64.1% ↗	66.3% ↗	7.7%
（10） ハーモニーを奏でる快適な都市空間をつくります	42.8%	43.3% ↗	45.8% ↗	47.７% ↗	4.9%
（11） 自然豊かな魅力あふれる憩いの場を守り、育てます	58.0%	60.5% ↗	63.0% ↗	64.9% ↗	6.9%
（12） 安全・安心が実感できる基盤づくりを進めます	52.3%	49.7% ↘	56.3% ↗	56.6% ↗	4.3%
（13） 一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます	55.1%	59.5% ↗	59.4% ↘	63.0% ↗	7.9%
（14） 一人ひとりの元気と健康づくりを応援します	52.2%	57.1% ↗	57.9% ↗	61.7% ↗	9.5%

※「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」と回答した割合の合計

大家族たかはま

高浜市

高浜市
大家族たかはま
花と緑であふれる
稗田川をつくろう

（２）「みんなで目指すまちづくり指標」一覧

＊＝市民意識調査で把握

目標	目標の達成度を計る指標	計画策定時の値（平成２２年）	実績値（平成23年）	実績値（平成24年）	実績値（平成25年）	目標値（平成25年）	動向
（１）市民とともに歩む経営を行います	目指すまちの姿である「思いやり　支え合い　手と手をつなぐ　大家族たかはま」を知っている人の割合　＊	―	２２．４%	３３．６%	３９．９%	３０%	○
	総合計画の評価や進行管理に参加したことがある人の数	―	７３人	１１０人	１３１人	１００人	○
（２）次世代のために、健全な財政運営を行います	将来負担比率	２０．９%	１２．３%	１．７%	将来負担なし	将来負担なし	○
	市の財政状況に関心を持っている人の割合　＊	７４．２%	７３．６%	６８．８%	７２．３%	８０%	×
（３）市民と行政が信頼関係を深め、ともにまちづくりを行います	「高浜市自治基本条例」を知っている人の割合　＊	―	１１．１%	１２．４%	１２．７%	３０%	×
	地域活動に参加したことがある人の割合　＊	４５．４%	５４．６%	５６．０%	５５．２%	５５%	○
	地域活動に参加している職員の割合	４５．０%	５９．０%	６３．１%	６１．１%	６０%	○
（４）学びを通して人づくりを進め、夢と希望につなげます	高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合　＊	６４．０%	６９．５%	７２．０%	７２．４%	６８%	○
	将来の夢を持っている子どもの割合　＊	７７．８%	７９．５%	８１．１%	７８．７%	８０%	△
（５）心たくましく健やかに育つ教育環境をつくります	毎日をとても楽しいと感じている子どもの割合　＊	４９．０%	５１．１%	５５．０%	５３．３%	５５%	△
	学習に積極的に取り組む子どもの割合　＊	６５．８%	７０．８%	７１．６%	７０．２%	７０%	○
	過去１年間に地域行事、ボランティア活動に参画した子どもの割合　＊	１３．６%	３．６%	４．４%	３．７%	２０%	×
（６）人のつながりやぬくもりの中で、子育ち・子育てを支えます	子どもを産み、育てやすいと感じている人の割合　＊	５９．０%	６３．２%	６５．６%	６３．５%	６２%	○
	子どもとふれあう行事に参加したことがある人の割合　＊	４５．１%	４３．３%	４４．８%	４５．６%	４８%	▲
（７）まちの成長を支えるエンジンとして、産業を元気にします	製造品出荷額等	4,923.4 億円	3,952.6 億円	4,003.2 億円	4,479.2億円	4,923.4 億円	▲
	小売商店の店舗数	３９０店舗	３８７店舗	―（未公表）	２８０店舗	３９０店舗	×
	組織化・法人化した農業者団体の数	0団体	0団体	0団体	0団体	1団体	×
	企業誘致制度を利用した件数	5件	6件	9件	１０件	１１件	▲
（８）地域に根ざした新たなビジネスの芽を育みます	コミュニティ・ビジネスの事業数（試験的運営含む）	0件	0件	0件	2件	2件	○
	まつり、イベントの来場者数（年間）	１２８,４００人	１６５,０００人	１３６,６００人	１５３,１３５人	１３１,０００人	○

目標	目標の達成度を計る指標	計画策定時の値（平成２２年）	実績値			目標値（平成 25 年）	動向
			（平成23年）	（平成24年）	（平成25年）		
（９） みんなでまちをきれいにします	日ごろから省エネや省資源など環境に配慮した生活をしている人の割合 ＊	７９．２%	８３．７%	７９．９%	８１．３%	８５%	▲
	１人１日あたりの家庭系ごみ排出量	５５６ｇ	５４７ｇ	５４５ｇ	５４５ｇ	４００ｇ	▲
	環境美化推進員の人数	１，７９１人	１，８６１人	２，９００人	２，９００人	２，１００人	○
（１０） ハーモニーを奏でる快適な都市空間をつくります	長く住み続けたいと思う人の割合　＊	７６．９%	７９．１%	７９．４%	８１．２%	８２%	▲
	歩きやすい、運転しやすいと感じている人の割合　＊	５２．１%	５１．７%	５６．０%	５６．０%	５７%	▲
（１１） 自然豊かな魅力あふれる憩いの場を守り、育てます	公園・緑地、街路樹や水辺空間づくりに参加したことがある人の割合 ＊	２５．６%	２４．０%	２７．０%	２７．７%	３０%	▲
	公園をよく利用する人の割合 ＊	１４．５%	１５．２%	１４．４%	１４．３%	２０%	×
（１２） 安全・安心が実感できる基盤づくりを進めます	地震の備えができていると感じている人の割合 ＊	２２．３%	２２．５%	２５．７%	２４．７%	２５%	△
	街頭犯罪発生件数（年間）	４０３件	３０７件	３０５件	３１７件	３８０件	○
	交通事故発生件数（年間）	２２０件	２０７件	２０５件	２２９件	１９０件	×
（１３） 一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます	ボランティアひろばセンター登録数（人口１万人あたり）	３８５人	３９５人	４０２人	４１８人	４７０人	▲
	不安や悩み事を身近に相談できる人や場所があると思っている人の割合 ＊	７６．９%	７１．６%	７６．０%	７５．９%	８０%	×
	地域で高齢者や障がい者等の見守りや生活の手助けをしている人の割合 ＊	２６．５%	２４．１%	２４．７%	２２．４%	３０%	×
（１４） 一人ひとりの元気と健康づくりを応援します	日常的に運動やスポーツを行っている人の割合 ＊	３４．３%	３５．５%	３４．８%	３６．０%	４０%	▲
	栄養や食生活に気をつけている人の割合 ＊	８０．２%	８０．３%	８０．４%	８１．４%	８３%	▲
	かかりつけ医を持っている人の割合　＊	６８．４%	７１．５%	７３．５%	７２．８%	７２%	○

【指標の動向】

記号	内容	指標数（割合）
○	実績値（平成 25 年）が目標値（平成 25 年）に達している。	13 指標（36.1%）
△	実績値（平成 25 年）が目標値（平成 25 年）には達していないが、実績値（平成 23 年もしくは平成 24 年）が目標値（平成 25 年）に達していた。	3指標（ 8.3%）
▲	実績値（平成 25 年）が目標値（平成 25 年）に達していないが、計画策定時の値を上回っている。	11 指標（30.6%）
×	実績値（平成 25 年）が計画策定時の値と同じ、もしくは下回っている。	9指標（25.0%）

MEMO

3

基本計画【前期】の総括

（１）総括の見方

基本計画【前期】の取組みに関連する写真を掲載しています。

▲高浜市の未来を創る市民会議

目標（１）
市民とともに歩む経営を行います

基本計画【前期】に掲げた目標、目指す姿を掲載しています。

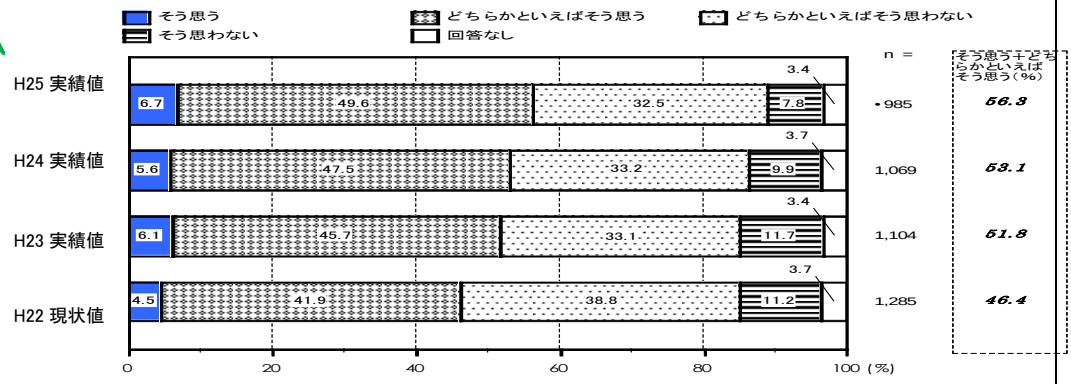
Ⅰ．目標と目標の達成状況

１．目指す姿	
目標達成に向けての考え方	「市民は高浜市の共同経営者である」という観点に立ち、政策形成過程や事業の実施・評価における市民参画を促進し、市民とともにＰ（計画）Ｄ（実行）Ｃ（評価）Ａ（改善）サイクルをまわし、市民が主役の経営を行っていきます。
目標が達成された姿	◇ 市民と行政がまちづくりの目標・課題・解決策といった情報を共有し、まちに対する愛着を深め、まちづくりに積極的に関わろうとする市民が増えています。 ◇ 総合計画の実行、評価や進行管理に多数の市民が参画し、わかりやすい経営が行われています。 ◇ 職員は、市民の意見をじっくり聞き、行政の考えをきちんと伝え、市民と真剣に対話しています。

市民意識調査結果の推移を表しています。

２．市民意識調査結果

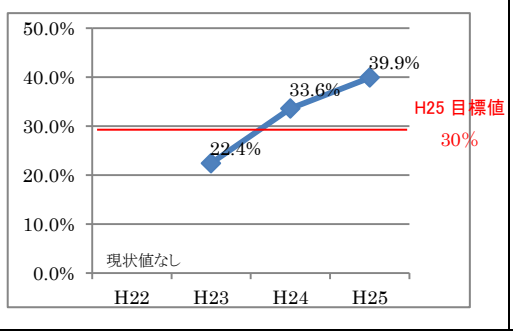
【設問】市民に開かれ、市民が参画する市政経営が行われているまちだと思う



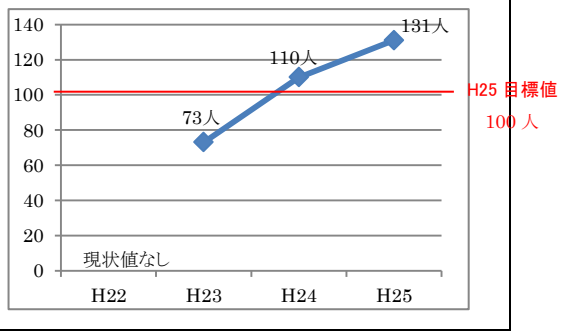
「みんなで目指すまちづくり指標」の推移を表しています。

３．「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

１）目指すまちの姿である「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」を知っている人の割合



２）総合計画の評価や進行管理に参加したことがある人の数



4.「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析（要因・課題等）

◆「市民意識調査」結果は計画策定時から 9.9%上昇し、市民とともに歩む経営が着実に進んでいる。年代が上がるほど「そう思う+どちらかといえばそう思う」の割合が高くなる傾向にあることから、若い世代に対するアプローチが必要である。
◆「指標１」は、市民の目に触れる各種資料・印刷物への掲載、ジャンバー・のぼりの作成、地域活動におけるチラシへのロゴ掲出など、地域や行政が様々な形で発信をした結果、目標値に達することができた。
◆「指標２」は、人材の掘り起こしや積極的な呼びかけを行った結果、目標値に達することができた。今後も、市政に対する関心を高め、「高浜市の共同経営者」意識を持った市民の増加につなげる取組みを進めていく。

「市民意識調査結果」や「指標の状況」を踏まえ、指標（目標）が達成できた要因・達成できなかった要因といった分析内容を記載しています。

Ⅱ．目標達成のための主な取組み

★はマニフェスト事業で、優先度が高い事業であることを示しています。

こんなことに取り組みます！	何を・どうした	いつ
★総合計画の進行管理に行政評価システムを導入し、市民とともに、総合計画の実行、評価を行います。	①「総合計画推進会議」や「市民会議」を設置し、市民とともに総合計画の「点検・確認」、「目標達成に向けた取組み」を進めた。	H23.5 ～H26.3
	②「行政評価委員会」を設置し、アクションプランの外部評価を実施した。	H23.10 ～H26.3
	③「広報たかはま」等で総合計画の推進状況等の情報を発信した。	H23.6～
☆行政が実施していることを市民にわかりやすくお知らせします。	①広報紙の魅力向上に向けて、順次、紙面の改善を図った。（１日号を２色刷に、「まちの話題」「カメラレポート」の充実、「月間行事カレンダー」の掲載、「“撮っておき”のたかはま」連載　など）	H23.4～
	②市公式HPリニューアルに向けた調査研究、現状分析などを行った。	H25.10～
☆市民ニーズに基づいた経営を行うため、市民意識調査などを実施し、多様な参画機会を創ります。	①「市民意見箱」制度を開始し、市民意見箱を３か所（市役所、いきいき広場、中央公民館）に設置した。	H23.4
	②「市民と行政のまちづくり懇談会」の対象を拡大し、「まちづくりトーク&トーク」へリニューアルした。	H24.10
	③「高浜市パブリックコメント条例」を施行した。	H25.4

掲げた目標の達成に向けて基本計画【前期】３年間の期間中にどんなことに取り組んできたのか、主な取組みを記載しています。

Ⅲ．課題と今後の取組みの方向性

課題	今後の取組みの方向性
（1）市民との協働による総合計画の進行管理のあり方 ・ 総合計画を実効性あるものにするため、市民会議を設置して市民とともに進行管理を行ってきたが、行政評価システムの導入により実効性が担保される仕組みができた。今後は市民への負担感等も考慮し、進行管理のあり方を見直す必要がある。	✧ 市民会議は前期で終了。「市民とともに進行管理を行う」精神を引き継ぎ、「総合計画推進会議」などで市民と行政が対話を重ねながら、進行管理を行う。 ✧ 総合計画のみならず、市民と職員がともに高浜市の将来について考える場「アシタのたかはま研究所」を設置・運営する。
（2）「参画・協働・情報共有ガイドライン」の策定と具体的なアクションの展開 ・ 自治基本条例に規定した「参画・協働・情報共有」のガイドライン策定が遅れたため、行政全体としての行動指針が明確にできていない。	✧ ガイドラインに基づき、全職員の意識を高め、各部署において具体的なアクションを展開する。 ✧ 市公式フェイスブックの立ち上げ、「広報たかはま」への市民参加手法の取り入れなど、「キャッチボール型」の情報発信・情報共有の取組みを強化する。
（3）行政評価システムの検証・見直し ・ 行政評価システム全体の検証を行い、中期基本計画の推進に向けて改善する必要がある。	✧ より効果的かつ効率的で、シンプルな仕組みを検討する。

基本計画【前期】の取組みから見えてきた課題を３つ挙げ、中期期間中（H26～H29）にどのように課題解決に取り組んでいこうと考えているのか、取組みの方向性を記載しています。

Ⅳ．第６次高浜市総合計画推進会議　コメント

主な取組みや目標達成状況などを踏まえ、今後に向けてのアイデアや想いなど、市民意見をまとめています。

目標（1）

市民とともに歩む経営を行います

▲高浜市の未来を創る市民会議

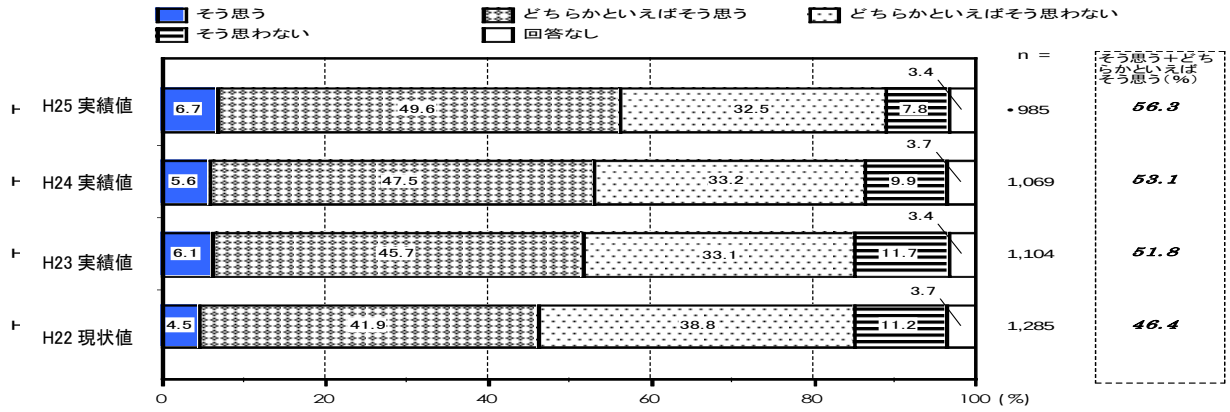
Ⅰ．目標と目標の達成状況

1．目指す姿

目標達成に向けての考え方	「市民は高浜市の共同経営者である」という観点に立ち、政策形成過程や事業の実施・評価における市民参画を促進し、市民とともにP（計画）D（実行）C（評価）A（改善）サイクルをまわし、市民が主役の経営を行っていきます。
目標が達成された姿	◇ 市民と行政がまちづくりの目標・課題・解決策といった情報を共有し、まちに対する愛着を深め、まちづくりに積極的に関わろうとする市民が増えています。 ◇ 総合計画の実行、評価や進行管理に多数の市民が参画し、わかりやすい経営が行われています。 ◇ 職員は、市民の意見をじっくり聞き、行政の考えをきちんと伝え、市民と真剣に対話しています。

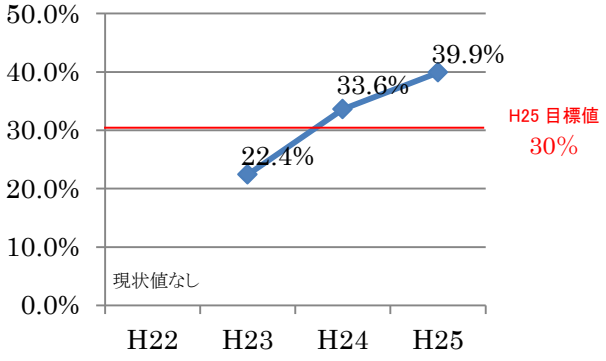
2．市民意識調査結果

【設問】市民に開かれ、市民が参画する市政経営が行われているまちだと思う

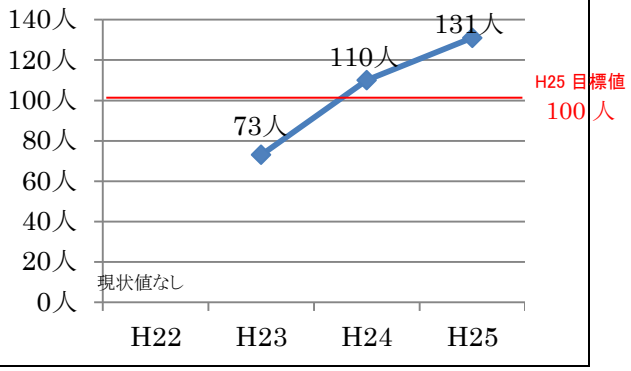


3．「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

1）目指すまちの姿である「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはまを知っている人の割合」



2）総合計画の評価や進行管理に参加したことがある人の数



4．「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析（要因・課題等）
◆「市民意識調査」結果は計画策定時から 9.9%上昇し、市民とともに歩む経営が着実に進んでいる。年代が上がるほど「そう思う＋どちらかといえばそう思う」の割合が高くなる傾向にあることから、若い世代に対するアプローチが必要である。 ◆「指標１」は、市民の目に触れる各種資料・印刷物への掲載、ジャンバー・のぼりの作成、地域活動におけるチラシへのロゴ掲出など、地域や行政が様々な形で発信をした結果、目標値に達することができた。 ◆「指標２」は、人材の掘り起こしや積極的な呼びかけを行った結果、目標値に達することができた。今後も、市政に対する関心を高め、「高浜市の共同経営者」意識を持った市民の増加につなげる取組みを進めていく。

Ⅱ．目標達成のための主な取組み

こんなことに取り組みます！	何を・どうした	いつ
★総合計画の進行管理に行政評価システムを導入し、市民とともに、総合計画の実行、評価を行います。	①「総合計画推進会議」や「高浜市の未来を創る市民会議」を設置し、市民とともに総合計画の「点検・確認」、「目標達成に向けた取組み」を進めた。	H23.5～H26.3
	②「行政評価委員会」を設置し、アクションプランの外部評価を実施した。	H23.10～H26.3
	③「広報たかはま」等で総合計画の推進状況等の情報を発信した。	H23.6～
☆行政が実施していることを市民にわかりやすくお知らせします。	①広報紙の魅力向上に向けて、順次、紙面の改善を図った。 （１日号を２色刷に、「まちの話題」「カメラレポート」の充実、「月間行事カレンダー」の掲載、「“撮っておき”のたかはま」連載　など）	H23.4～
	②市公式ＨＰリニューアルに向けた調査研究、現状分析などを行った。	H25.10～
☆市民ニーズに基づいた経営を行うため、市民意識調査などを実施し、多様な参画機会を創ります。	①「市民意見箱」制度を開始し、市民意見箱を３か所（市役所、いきいき広場、中央公民館）に設置した。	H23.4
	②「市民と行政のまちづくり懇談会」の対象を拡大し、「まちづくりトーク＆トーク」へリニューアルした。	H24.10
	③「高浜市パブリックコメント条例」を施行した。	H25.4

Ⅲ．課題と今後の取組みの方向性

課題	今後の取組みの方向性
（1）市民との協働による総合計画の進行管理のあり方 ・ 総合計画を実効性あるものにするため、市民会議を設置して市民とともに進行管理を行ってきたが、行政評価システムの導入により実効性が担保される仕組みができた。今後は市民への負担感等も考慮し、進行管理のあり方を見直す必要がある。	✧ 市民会議は前期で終了。「市民とともに進行管理を行う」精神を引き継ぎ、「総合計画推進会議」などで市民と行政が対話を重ねながら、進行管理を行う。 ✧ 総合計画のみならず、市民と職員がともに高浜市の将来について考える場「アシタのたかはま研究所」を設置・運営する。
（2）「参画・協働・情報共有ガイドライン」の策定と具体的なアクションの展開 ・ 自治基本条例に規定した「参画・協働・情報共有」のガイドライン策定が遅れたため、行政全体としての行動指針が明確にできていない。	✧ ガイドラインに基づき、全職員の意識を高め、各部署において具体的なアクションを展開する。 ✧ 市公式フェイスブックの立ち上げ、「広報たかはま」への市民参加手法の取り入れなど、「キャッチボール型」の情報発信・情報共有の取組みを強化する。
（3）行政評価システムの検証・見直し ・ 行政評価システム全体の検証を行い、中期基本計画の推進に向けて改善する必要がある。	✧ より効果的かつ効率的で、シンプルな仕組みを検討する。

Ⅳ．第６次高浜市総合計画推進会議　コメント

・３年間様々な取組みが行われたが、良い点・悪い点の検証が不足していた感がある。情報発信に関して一度見直しを行い、フェイスブックなど、新旧様々な手法により、市民にわかりやすく伝えることが大切である。わかりやすく伝えていくことにより、取組みの実現にもつながっていくと考えられる。

目標（2）

次世代のために
健全な財政運営を行います

▲わかりやすい財政のお話（財政クイズ）

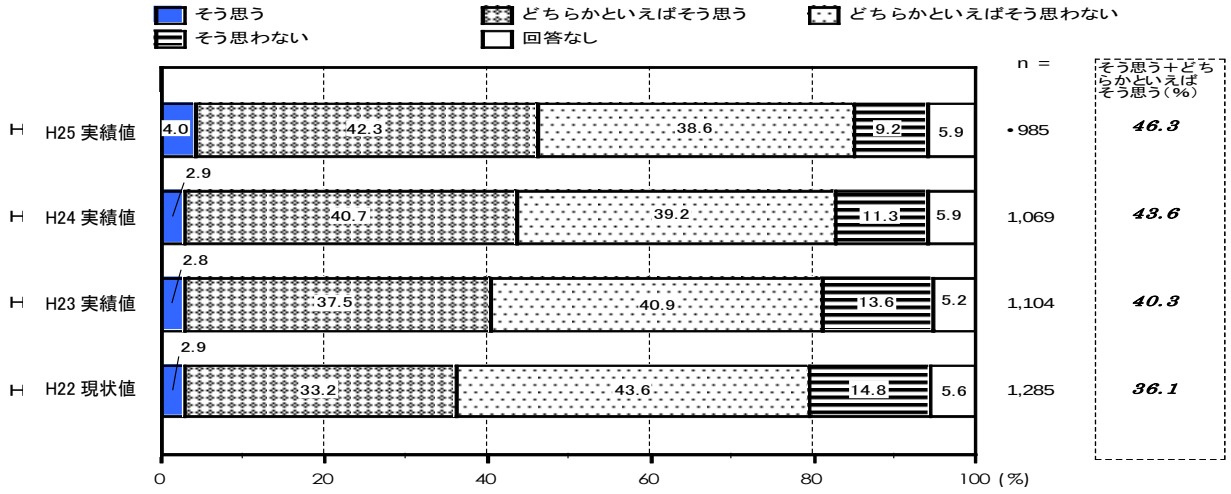
Ⅰ．目標と目標の達成状況

1．目指す姿

目標達成に向けての考え方	限られた財源の中で、事業に優先順位をつけて、「あれかこれか」を選択し、メリハリのきいた健全な財政運営を行っていきます。
目標が達成された姿	◇ 事業に優先順位をつけ、「あれかこれか」を選択する仕組みができています。 ◇ 地域の現状や課題をしっかりと把握し、歳出が最適化され、健全な財政運営が行われています。 ◇ 財政に関する情報が市民に浸透し、市民が当事者意識をもって、市の財政状況を見ています。 ◇ 効率的に行政サービスが提供され市民に喜ばれています。

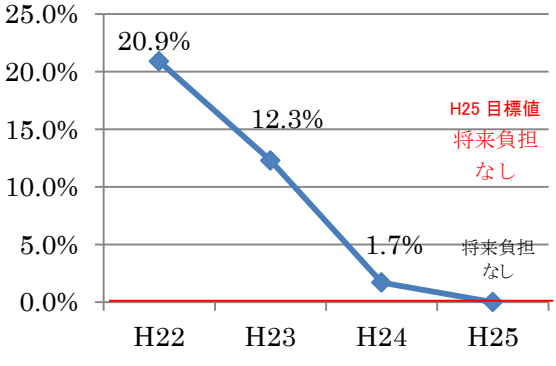
2．市民意識調査結果

【設問】将来の世代のために、借入金に頼らず健全な財政運営が行われているまちだと思う

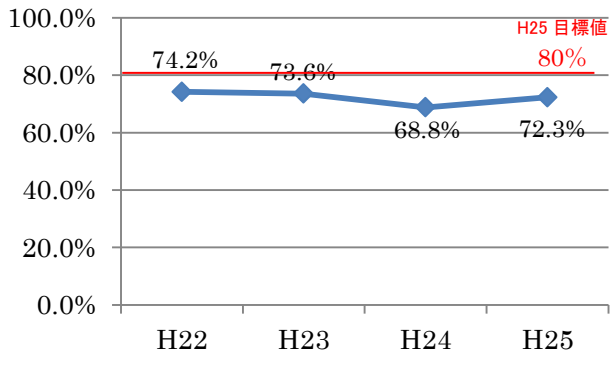


3．「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

1）将来負担比率



2）市の財政状況に関心を持っている人の割合



4．「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析（要因・課題等）
◆「将来負担比率」については、行政のスリム化や借金に頼らない身の丈にあった財政運営、「プライマリーバランス黒字」の堅持、大型公共事業の起債の償還終了により、目標を達成することができた。 ◆「わかりやすい予算書」の発行や事業仕分けの実施などにより、市の行財政の「見える化」を図ってきたが、「市の財政状況に関心を持っている人の割合」は策定時に比べて若干減少する結果となった。しかしながら、４人に３人近い市民は市の財政に関心があると回答している。年齢別にみると、10 歳代（55.6%）、20 歳代（51.8%）の若年層の関心度が相対的に低くなっている。 ◆「健全な財政運営が行われているまちだと思う」との設問に対する市民意識調査の結果は年々上昇しており、財政情報の「見える化」により正確な情報が伝わっていることがうかがえる。

Ⅱ．目標達成のための主な取組み

こんなことに取り組みます！	何を・どうした	いつ
★事業の見える化やムダの削減を行うため、事業仕分けの手法を活用します。	①「高浜版事業仕分け」を実施し、事業仕分け委員会から市長へ提言が提出された。	H23.5～10
★予算編成のプロセスや財政状況などを「わかりやすい予算書」などにとりまとめ、市民にわかりやすくお伝えするとともに、考えることができる環境を整えます。	①「わかりやすい予算書」（当初予算編・決算編・税金編など）を市民とともに編集・発行した。	H23.5～H25.11
	②広報へ市民の知りたい財政情報（わかりやすい財政のお話・借金時計・預金通帳など）や財政クイズを定期的に掲載した。	H24.4～H26.3
★公共施設の今後のあり方を市民とともに考えます。	①職員プロジェクトチームを発足させ、「公共施設マネジメント白書」をとりまとめた。	H23.5～H23.12
	②専門家や市民を交えた「公共施設あり方検討委員会」を開催し、公共施設あり方計画（案）が提言された。	H24.8～H25.3
	③各公共施設の具体的な保全計画を定める「公共施設保全計画（案）」を作成した。	H25.4～H26.5
☆財政計画に基づき、施策・事業の実施にあたっては、緊急度や必要性などをもとに優先順位をつけるなど、メリハリのきいた予算編成に取り組みます。	①平成 22 年度に策定した「高浜市中期財政計画」を、社会経済情勢を踏まえて見直した。	H23.10、H24.9
	②「予算編成会議」を設置し、新たな予算編成の仕組みを構築した。	H24.8
	③総合計画の中期基本計画における「財政見通し」を作成した。	H25.9
☆市民サービスの向上につながるものについては、国・県・近隣市などをはじめとした関係機関との広域的な連携を行います。	①定住自立圏共生ビジョン（計画期間：H24～H28 年度）を策定し、医療健康、公共交通、観光、共存協働の４分野について、圏域市町（刈谷市・知立市・高浜市・東浦町）と連携した事業（例：刈谷豊田総合病院と診療所との病診連携）を実施した。	H24.3～H26.3
☆行うべき仕事にあわせて組織を構築し、目標を実行・達成するための体制を整えます。	①経営改革プロジェクトにおいて、行政機能の効率化推進に向けた行政組織と人事評価制度のあり方について検討した。	H23.4～H24.3

Ⅲ．課題と今後の取組みの方向性

課題	今後の取組みの方向性
（１）事業の優先順位づけ・選択の仕組みの構築 ・よりよい仕組みとするための検証・改善が必要である。	✧ これまで経験してきた「高浜版事業仕分け」や「行政評価」の経験を基に、「行政サービスのあり方」について調査・検討する。
（２）公共施設に関する計画を踏まえた財政運営 ・公共施設に関する計画内容を踏まえた財政運営を行うことが必要である。	✧ 「公共施設あり方計画（案）」を踏まえ、「長期財政見通し」を策定し、検証・見直しを行う。ＰＤＣＡサイクルによる計画の見直しができる仕組み作りを検討する。 ✧ 市民にわかりやすく財政情報を提供する。自主財源の確保や受益者負担の適正化の観点から「受益と負担」の設定基準をつくる。
（３）効率的な行政サービスの提供 ・さらなる効率的な行政サービスの向上を目指していく必要がある。	✧ 定住自立圏共生ビジョンに基づき、広域連携を推進する。 ✧ 行政運営の効率化については、職員力の更なる向上と合わせて一体的に取り組む。

Ⅳ．第６次高浜市総合計画推進会議　コメント

・今後も財政情報を定期的にわかりやすく、継続して開示をしていただきたい。

目標（3）

市民と行政が信頼関係を深め ともにまちづくりを行います

▲自治基本条例 出前授業

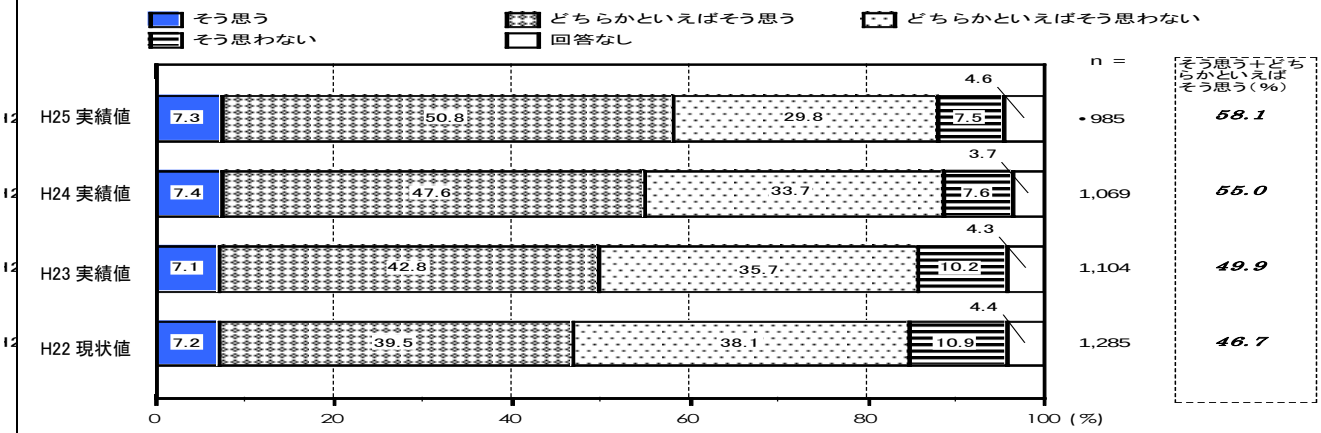
Ⅰ．目標と目標の達成状況

1．目指す姿

目標達成に向けての考え方	元気で活力に満ちたまちづくりを目指し、「高浜市自治基本条例」の趣旨を活かして地域の課題解決や魅力の向上に向けて知恵を出し合い、ともに汗をかいていきます。
目標が達成された姿	◇ 市民と行政の意見交換が活発に行われ、お互いの信頼関係が深まり、ともにまちづくりを行っています。 ◇ 地域の課題を地域の自主的・主体的な活動により解決する取り組みが活発に行われています。 ◇ 市民同士がきちんと話し合いをして、お互いに納得できる合意を創り出すなど自治力が向上しています。 ◇ 多くの市民がまちづくりに関わり、地域のニーズに即して税が有効に活用されています。

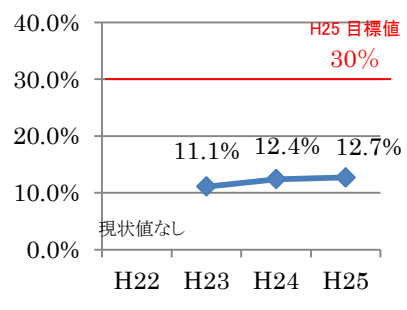
2．市民意識調査結果

【設問】市民と行政が信頼関係を深め、ともにまちづくりを行っているまちだと思う

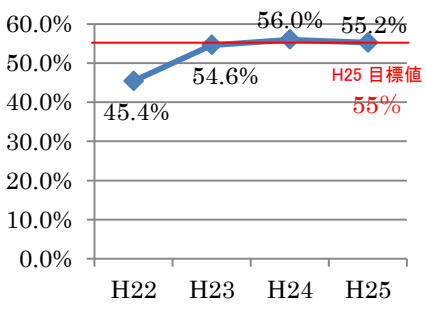


3．「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

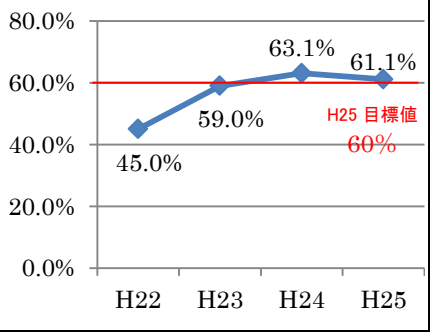
1）「高浜市自治基本条例」を知っている人の割合



2）地域活動に参加したことがある人の割合



3）地域活動に参加したことがある職員の割合



4．「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析（要因・課題等）
◆「指標１」は目標値に至らなかったが、自治基本条例を知っていただくよりも、条例の精神を広め、まちづくりに参加・参画する人を増やす取組みに注力した。今後も条例に込められた想い・精神を伝えていく。 ◆「指標２・３」は、まちづくり協議会への活動支援やまちづくりフォーラムの開催など、協働のまちづくりを進めてきた成果であるが、継続的な取組みが必要である。特に「指標３」では、さらなる数値の上昇に向け、研修以外に、職員が地域活動に参加しやすい仕組みづくりが必要である。 ◆「市民意識調査」結果では、女性に比べて、男性の「そう思う＋どちらかといえばそう思う」の割合が低くなっており、男性が活躍できる取組みを推進する必要がある。

Ⅱ．目標達成のための主な取組み

こんなことに取り組みます！	何を・どうした	いつ
★「高浜市自治基本条例」に基づいた自治の仕組みをわかりやすく示し、まちづくりの中で活用します。	①市民会議自治推進分科会等と協働で「自治基本条例子ども向け副読本」を作成し、小学６年生を対象に「出前授業」を実施した。	H25.2～3 H26.2～3
	②「参画・協働・情報共有ガイドライン」（案）を策定した。	H26.3
	③まちづくり協議会サミットにおいて「（仮称）まちづくり協議会条例」（素案）を審議し、策定した。	H23.11 ～H26.3
★地域の「どうしよう？」を解決し、「こうしたい！」という想いを実現するための仕組みとして「市民予算枠事業」を行います。	①地域内分権推進型（のべ 35 団体 39 件）協働推進型（のべ 15 件・21 件）の事業に対し、交付金を交付した。	H23.4 ～H26.3
	②まちづくりフォーラム等でパネルを展示するなど、活動の「見える化」を行い、活動の意義・効果等を発信した。	H24.2/H25.2/H25.9
	③「提案書作成手引き」を作成し、まちづくりフォーラム等で説明・配布し、活動の掘り起こしを行った。	H24.9 ～H26.3
★限られた財源を地域で有効活用するため、「まちづくり総合交付金制度」の導入を検討します。	①他自治体の事例を調査し、効果・課題等を洗い出し、交付金の今後の方向性・方針（案）を報告書としてまとめた。	H23.4 ～H25.3
☆新たな自治の仕組みづくりのため、市民力、職員力アップに取り組みます。	①まちづくりシンポジウムやフォーラムを開催した。（参加者数：のべ 957 人）	H24.2/H25.2/H25.9
	②衣浦定住自立圏市民活動情報サイトを活用し、市内団体の活動の情報発信を行った。（登録団体数：55 団体）	H24.4～
	③「たかはま地域経営実践塾」等、各種職員研修を実施した。	H23.4～

Ⅲ．課題と今後の取組みの方向性

課題	今後の取組みの方向性
（１）自治基本条例の精神の普及 ・即効性を求めるのではなく、漢方薬のようにじわじわと広めていくしかない。	✧ 「出前授業」を高浜カリキュラムに組み込み、総合学習の集大成として、地域との協働により全小学校での実施を定着させる。 ✧ 「参画・協働・情報共有ガイドライン」に沿った具体的なアクションを各部署で展開する。
（２）現場の声を踏まえて、市民による主体的なまちづくり活動が活発になる仕組みを検討 ・活動の意義・効果が、十分に伝わっていない。高浜市らしい協働のあり方を見出していく必要がある。	✧ 活動の意義・効果等を紹介する取組みを強化する。 ✧ まちづくりの裾野を広げる取組み、男性が活躍できる取組みを進める。 ✧ 交付金のあり方や行政の各部門の関わり方など、地域活動が活発になる仕組みを検討する。
（３）問題意識・使命感を持った職員の育成と職場全体の底力の向上 ・ベテランから若手への入替が急速に進む中、若手職員の育成が急務である。	✧ 「たかはま地域経営実践塾」「若手職員成長支援研修」などにより、積極的・主体的に行動できる職員の育成に取り組む。 ✧ 職員の地域活動への参加を促進し、知識・能力・資質の向上など、職員力を“現場”で磨く。

Ⅳ．第６次高浜市総合計画推進会議　コメント

・「自治基本条例を知っている人の割合」があまり上がらなかったのは残念だが、小学６年生を対象とした「自治基本条例出前授業」の実施効果が、やがて出てくると期待している。「出前授業」を「高浜カリキュラム」に組み込み、総合学習の一環として毎年継続的に実施できるようシステム化されることを願う。 ・様々な人生経験・社会経験をした市民と若手職員が活発にディスカッションできる場を持ち、職員の資質向上・視野拡大を図る手立てを講じていただきたい。

目標（4）
学びを通して人づくりを進め 夢と希望につなげます

▲「タカハマ物語！第１弾に関わったメンバーたち

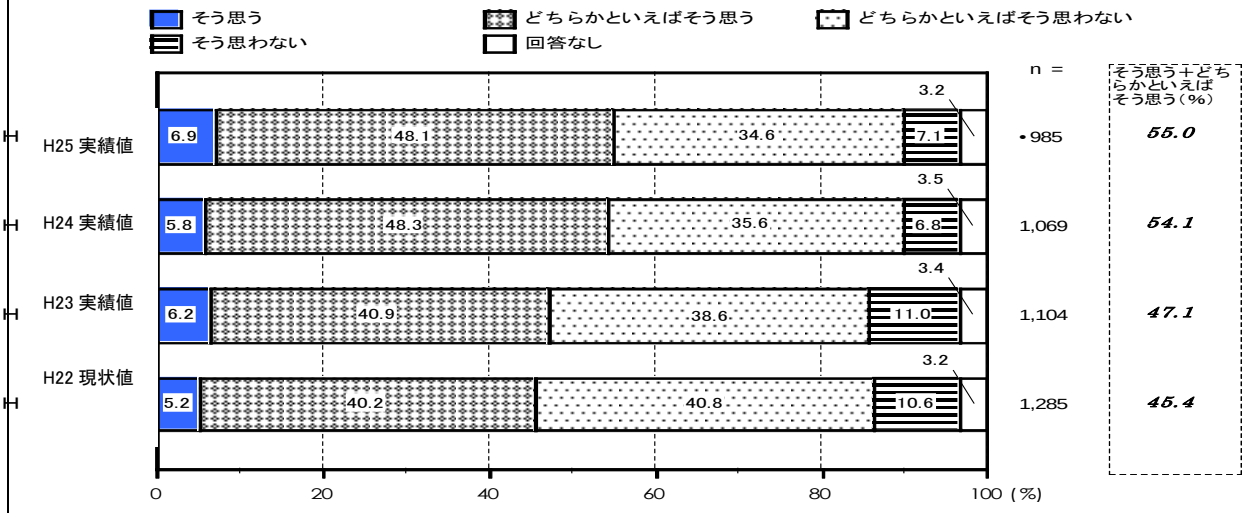
Ⅰ．目標と目標の達成状況

1．目指す姿

目標達成に向けての考え方	子どもを生涯学習の「根っこ」と捉え、子どもが夢と希望を持って青少年から社会人へと成長し、大人もまち自体も、大地から大樹のように一緒に成長し、次の時代へつなげていきます。
目標が達成された姿	◇ 感動との出逢いにより、子どもたちが成長し、次の世代へ夢とロマンを語り継いでいます。 ◇ 市民が学ぶ力を高め、学んだ成果をまちづくりに積極的に活かしています。 ◇ 地域資源が次の世代へ継承され、地域に息づいています。 ◇ 「たかはまが大好き」という市民が増えています。

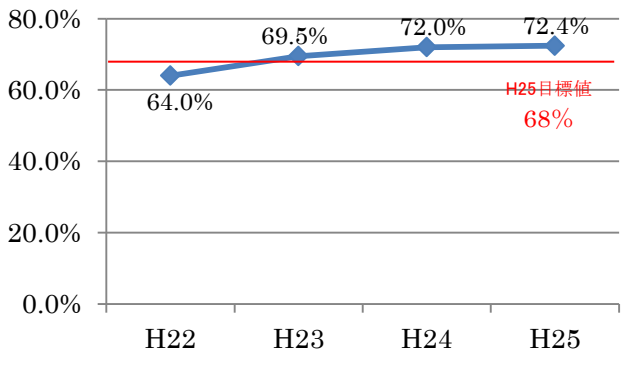
2．市民意識調査結果

【設問】学びを通して人が育ち、夢と希望を持って楽しく暮らせるまちだと思う

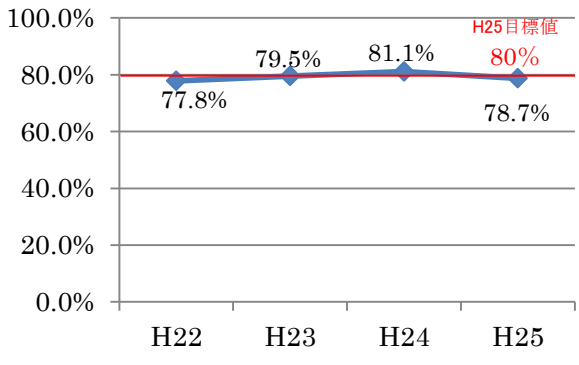


3．「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

1）高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合



2）将来の夢を持っている子どもの割合



4.「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析（要因・課題等）
◆指標１）は７割を超える人が高浜市に愛着や誇りを持っており、各種取組みで、「地域」への関わり、あるいは「地域」を意識する人が増えたことが要因とみられる。 ◆指標２）は調査対象である小３から中３の子どものうち 80%近くが、将来の夢を持っており、高い水準にある。平成 24 年度は、市民ムービー「タカハマ物語」の制作・上映が数値を上げたと考えられ、引き続き、日常の取組みの中で、こども・若者の成長応援を続けたい。 ◆「市民意識調査結果」では、年々数値が上昇しており、学びに触れる機会を継続して提供している効果が出ている。今後、さらに学びの機会を増やし、夢と希望を持てる取組みを進めたい。

Ⅱ．目標達成のための主な取組み

こんなことに取り組みます！	何を・どうした	いつ
★「高浜市生涯学習基本構想」を策定し、「学習したい」「活動したい」という想いを応援します。	①「高浜市生涯学習基本構想」（計画期間：H24～H33）を市民との協働により策定した。	H23.4～ H24.2
☆地域・学校・事業者・関係機関との連携により、市民に学ぶ喜びや楽しさ、ものづくりの素晴らしさを伝えます。	①生涯学習ネットワーク構築について、高浜市の未来を創る市民会議（生涯学習分科会）にて意見交換を行い、「高浜（まち）の学校」として、夏季講座５講座・秋季講座４講座を開催した。	H24.6 ～H25.3
	②「広報たかはま」にて月１回「地域の達人」の連載を行い、生涯学習のネットワークを広げた。	H25.4 ～H26.3
☆夢やロマンを語ることができる、未来に羽ばたく人材を育てます。	①「中・高校生の居場所運営委員会」メンバーが、実行委員として「タカハマ物語」の制作・運営に携わった。	H23.7 ～H24.3
	②市民ムービー「タカハマ物語」が完成し、上映会を開催した。	H24.8 ～H25.3
	③「タカハマ物語」の想いを次につなげる企画の検討を行い、「タカハマ物語」第２弾の制作が決定した。	H25.4 ～H26.3
☆地域スポーツを通じて健やかな心と身体を作り、市民交流の場を充実します。	①NPO 法人たかはまスポーツクラブ、市体育協会、市スポーツ推進委員会、高浜ボートクラブ等と連携・協働し、子ども～高齢者が楽しめる各種スポーツ教室・サークル、スポーツイベントを実施した。	H23.4 ～H26.3
	②新企画「高浜市民駅伝大会」を開催した。	H25.12
☆地域の良さ（歴史、文化、伝統、産業等）を学び合い、愛着と誇りを高めていくため、地域学（高浜学）を立ち上げます。	①郷土資料館を会場とした「高浜ふるさと」講座を実施した。	H23.4 ～H26.3
	②人形文化活性化事業として、吉浜の「菊人形づくり」や「吉浜細工人形づくり」の映像記録を作成し、シンポジウムを実施した。	H23.4 ～H26.3

Ⅲ．課題と今後の取組みの方向性

課題	今後の取組みの方向性
（１）生涯学習基本構想の総合的な推進 ・まちへの愛着・誇りを高め、多様な人が主体的に学びに関わり、その成果をまち中に広げ、将来につなげていく必要がある。	✧ まちの魅力を将来に語り継いでいくため、子ども～高齢者、外部の視点も取り入れながら、市民とともにまちの魅力を掘り起こし、高浜市の財産としてまとめ、学び合い・語りあっていく総合的な取組み（タカハマ！まるごと宝箱）を進める。
（２）夢や希望を膨らませる取組み ・若者・子どもたちを「未来に羽ばたく人材」として育てていく必要がある。	✧ 「子ども・若者成長応援事業」（例：市民ムービー「タカハマ物語」第２弾）などを通して、子どもたちの関わりを増やし、想いが実現する「達成経験」を味わえる機会を増やしていく。
（３）スポーツを通じた健康づくり・生きがいづくり ・高齢化を背景に、誰もが気軽にスポーツに親しみ、健康で明るく活力に満ちた地域社会を創ることが求められている。	✧ スポーツ・レクリエーション機会の創出や（仮称）高浜緑地の整備など、誰もが気軽にスポーツ・レクリエーションに参加できる環境づくりを、NPO 高浜スポーツクラブやスポーツ推進委員など、関係者と連携して進める。

Ⅳ．第６次高浜市総合計画推進会議　コメント

・生涯学習の推進にあたっては、自らの人生を切り開く力を高める「個人的自己決定能力の確立」（例：趣味・余暇学習など）のほかに、地域のみんなで社会をよくしていくために、ともに考え、取り組んでいくといった「集団的自己決定能力の確立」（例：地域防災・防犯学習）を目指したプログラムを取り入れていただきたい。それが、高浜市を愛し、定着・定住型市民の育成、地域コミュニティを支える人材育成につながっていく。
・市民ムービー「タカハマ物語」第２弾のように、今後も子ども・若者が自主性等を育み、まちへの想いを深めるような機会を創出していただきたい。

目標（5）

心たくましく健やかに育つ教育環境をつくります

▲小学校の授業のようす

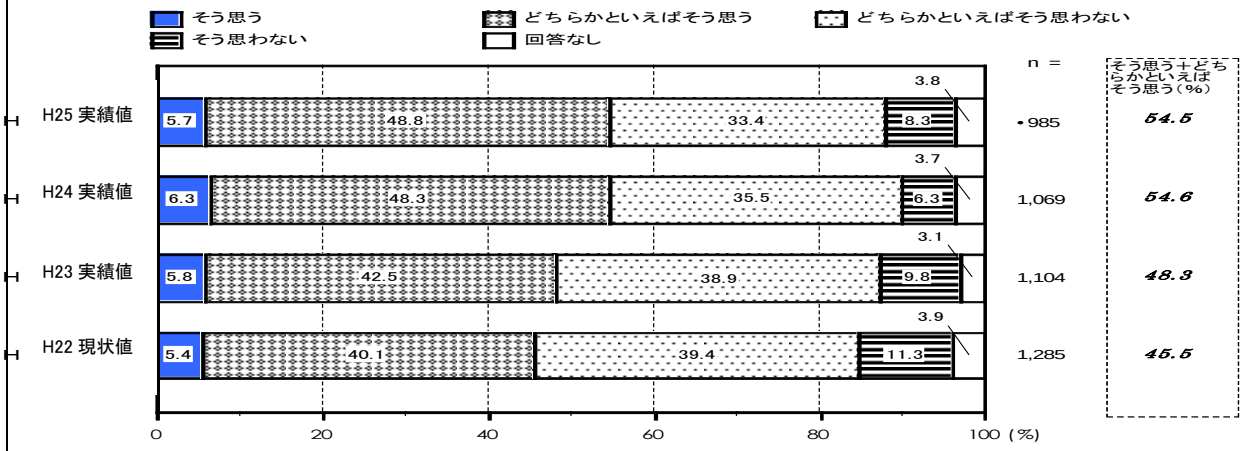
Ⅰ．目標と目標の達成状況

1．目指す姿

目標達成に向けての考え方	次世代を担う子どもを心身ともに健やかに育むために、家庭・地域・学校の連携を強化し、みんなで育てる環境をつくっていきます。
目標が達成された姿	◇ 子どもが心身ともに健康で、夢や希望を持ち、毎日が楽しいと感じています。 ◇ 確かな学力と生きる力が育まれ、一人ひとりの個性が伸びています。 ◇ 教師、家庭だけでなく、地域の様々な人が子どもと関わっています。 ◇ 高浜市の特性に合った教育環境が整っています。 ◇ 子どもが地域活動に主体的に参画しています。

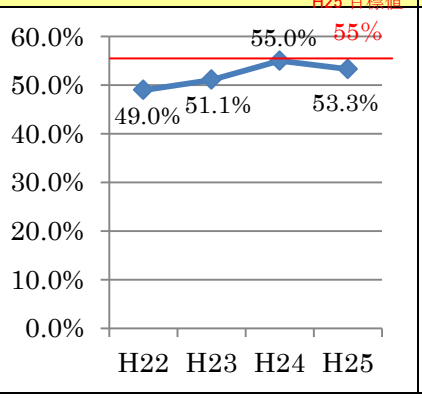
2．市民意識調査結果

【設問】心たくましく健やかに育つ教育環境が整っているまちだと思う

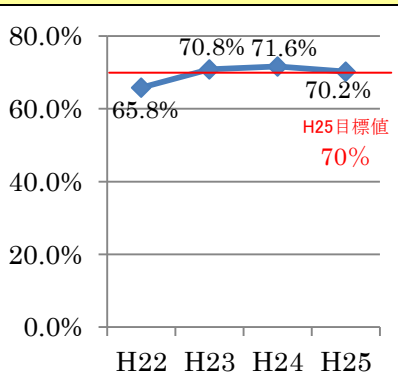


3．「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

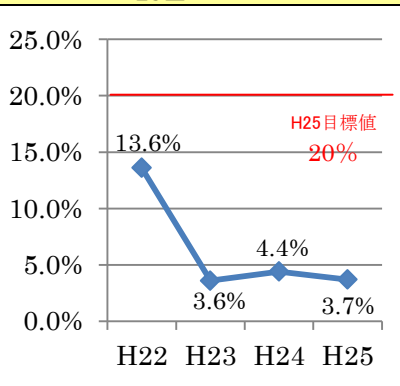
1）毎日をとても楽しいと感じている子どもの割合



2）学習に積極的に取り組む子どもの割合



3）過去１年間に地域行事、ボランティア活動に参画した子どもの割合



4.「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析（要因・課題等）
◆「指標１」は、「どちらと言えば楽しい」まで含めば 93%を越えている。今後もこのレベルを維持していくことが重要である。子どもが抱く不安材料を追究し、減少していかなければならない。 ◆「指標２」は、子どもの学習意欲を引き出す授業力の向上が、効果を上げつつある。学年が上がると、学習内容の難しさから意欲の低下が見られるため、少しでも引き上げていくことが課題である。また、子どもの思考・追究の連続性に即さない「出前授業」が授業時間を圧迫しないよう、本来確保すべき授業時間数、子どもの学びの保障のためにさらに調整を図る必要がある。 ◆「指標３」については、「参加」の裾野は着実に拡大している。「参画」となると、子どもを参画させるための働きかけ・啓発が課題である。 ◆「市民意識調査結果」について、市民がイメージする「教育環境」は「施設整備」の面が強い。現在推進する「幼保・小・中の縦の連携」「学校・地域・家庭の横の連携」が教育環境整備であることを市民に理解していただくことが重要である。

Ⅱ．目標達成のための主な取組み

こんなことに取り組みます！	何を・どうした	いつ
★高浜市の教育のあり方を示し、教育施策を総合的に進めていくための指針として、「高浜市教育基本構想」を策定します。	①市民・教員・市職員の協働による「教育基本構想策定委員会」において「高浜市教育基本構想」を策定した。	H23.12
	②教育基本構想推進の各委員会・部会を立ち上げ、「高浜カリキュラム」「幼保小中の連携」「学校防災」等に取り組んだ。	H24.4～ H26.3
☆子どもの学力、体力、心の成長と、教師力の向上を目指し、幼保小中が一貫した高浜市独自の教育カリキュラムについて研究します。	①「高浜カリキュラム」策定委員会を立ち上げ、「生活・総合的な学習の時間」の全体計画案を作成した。	H24.4 ～H25.3
	②小３を対象に「福祉」領域の実践を開始した。	H25.4～
	③年少「保育」、小４「環境」、中１（キャリア教育）について、平成 26 年度開始に向けた検討・準備を行った。	H25.4 ～H26.3
☆家庭の教育力を高めるために、学習機会と啓発活動を充実します。	①「異校種連携推進委員会」にて、幼稚園・保育園、小学校、中学校卒業までに身につけさせたい生活習慣や学習習慣（めざす子ども像）を検討し、明文化する方針を決定した。（＊１）	H25.4 ～H26.3
☆子どもが主体となって地域活動に参画できる環境をつくり、家庭・地域・学校との交流を活性化します。	①「学校支援ボランティア推進部会」（H25 より「教育支援活動調整委員会」）を立ち上げ、学校の想いと地域の想いを調整する仕組みを確立した。（＊２）	H25.4 ～H26.3
☆幼保小中一貫教育を視野に入れて、地域の総合的な教育環境の向上に努めます。	（＊１）と（＊２）に同じ	

Ⅲ．課題と今後の取組みの方向性

課題	今後の取組みの方向性
（１）幼保小中教職員による「12 年間の学びや育ちをつなげる」意識の向上 ・園や学校間の連携を強化し、市内全職員で子どもたちを 12 年間かけて育てていくという意識をつなげていく必要がある。	✧ 「高浜市がめざす子どもの姿」を明確にし、幼保小中教職員一人ひとりが「12 年間の学びと育ちをつなげる」という意識をもてるような取組みを進める。 ✧ 幼稚園・保育園、小学校、中学校といった異校種間の「タテのつながり」を密にし、個々の子どもたちの視点に立ち、発達段階に応じた教育を行う。
（２）学校の想いと地域の想いのマッチング ・「学校の実情に応じた学校支援」という観点を大切にし、学校の想いと地域の想いを調整する場が必要である。	✧ 園・学校、家庭、地域といった「ヨコのつながり」を密にし、「本音の語り合い」と「本物の信頼関係」で学校と地域をつなぎ、地域ぐるみで子どもたちの成長を見守り、手助けする“みんなの学校”をつくっていく。
（３）高浜小学校のあり方 ・築後 54 年を経過した高浜小学校について、老朽化対策が必要である。	✧ 「公共施設のあり方計画」を踏まえ、事業手法の検討など、整備準備を進める。

Ⅳ．第６次高浜市総合計画推進会議　コメント

・「教育基本構想」に掲げた教育ビジョンの実現に向けて、引き続き推進していただきたい。 ・高浜市の教育現場で行われている良い取組みについては、もっと市民にアピールするとよい。（例：スマホの使用制限） ・「12 年間の学びや育ちをつなげる」という意識が教職員に浸透してきた。子どもと園・学校、家庭、地域のより良いつながりが築いていけることを期待する。

目標（６）

人のつながりやぬくもりの中で 子育ち・子育てを支えます

▲家庭的保育のようす

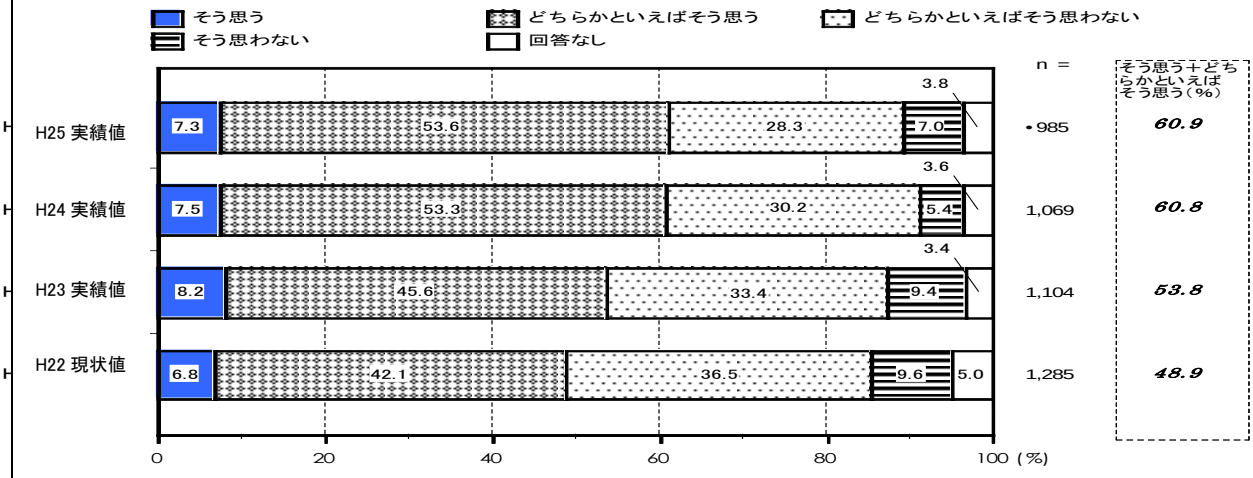
Ⅰ．目標と目標の達成状況

１．目指す姿

目標達成に向けての考え方	家庭だけでなく、地域・事業者・関係機関と連携して、多様なライフスタイルやニーズに対応し、安心して子どもを産み育てることができる環境を整えていきます。
目標が達成された姿	◇ 安心して子どもを産み、育てられるようになっています。 ◇ 地域の見守りの中で、子どもがのびのびと活動する姿が見られます。 ◇ 地域・事業者・関係機関と連携して、子育ち・子育てを支える体制ができています。 ◇ 子育てや仕事を楽しむ親が増え、親子の対話やコミュニケーションが活発になっています。

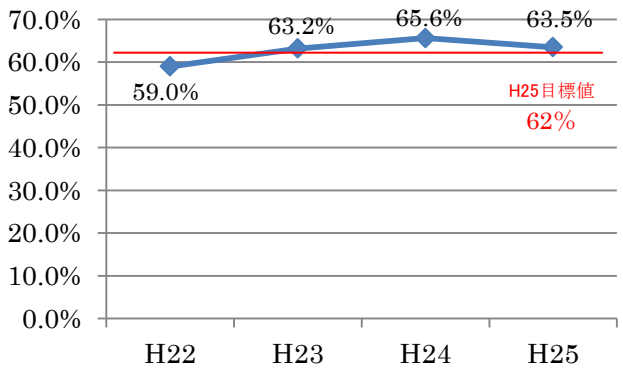
２．市民意識調査結果

【設問】人のつながりやぬくもりの中で、子育ち・子育てを支えているまちだと思う

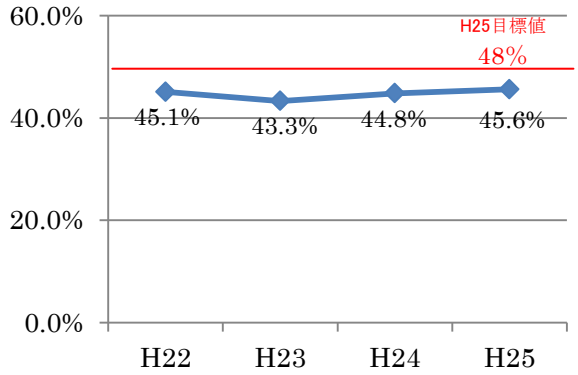


３．「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

１）子どもを産み、育てやすいと感じている人の割合



２）子どもとふれあう行事に参加したことがある人の割合



4.「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析（要因・課題等）

◆指標１）は計画策定時より数値が上昇し、目標値を達成することができた。子どもの医療費の無料化は継続性が求められ、かつ保育と子育て支援の充実及び多様化がニーズ対応として必要と考える。
◆指標２）は計画策定時から横ばいである。第２次高浜市生涯学習基本計画の着実な推進のため、引き続き本指標達成への取組みを進めていかなければならない。
◆今後も指標の数値向上に向け、事業所管グループだけでなく、市役所内や地域団体等と連携を強化し、「まなびの根っこ」である子どもたちを地域全体で育てていく環境の整備が必要と考える。

Ⅱ．目標達成のための主な取組み

こんなことに取り組みます！	何を・どうした	いつ
★地域の人たちと交流したり、異年齢の子どもと遊んだり、学んだりすることによって、子どもの自主性・社会性を育む居場所を拡充します。	①全小学校で放課後居場所事業を実施した。	H23.5
	②関係者（学校・シルバー・行政）による連絡調整会議や、参加生徒に対しアンケートを実施し、子どもたちが気軽に参加しやすい事業の実施に向け取り組んだ。	H24.2～H26.3
★「たかはま子育ち・子育て応援計画」（次世代育成支援対策地域行動計画）に基づき、利用者のニーズを反映した保育サービスを提供します。	①吉浜保育園・中央保育園の民営化を開始した。	H24.4/H25.4
	②家庭的保育「おひさま」・「からんこえ」を開所した。	H24.4/H25.4
	③幼稚園預かり保育の拡充を開始した。	H25.4
★子どもを取り巻く人や地域、専門機関などをつなぐネットワークを構築し、地域力を強化しながら、子育ち・子育てを支援します。	①「子育て支援ネットワーク」ポータルサイトの運営により、小中学生まで拡充した子育て関連の情報を随時配信した。	H23.4～H26.3
	②メールマガジンを随時配信することにより、子育てに関する情報を提供した。	H23.4～H26.3
★中学校卒業までの子どもの医療費の無料化を継続します。	①中学校卒業までの医療費無料化を継続して実施した。	H23.4～H26.3
	②出生届出時等で制度を周知し、証交付につなげた。	H23.4～H26.3
☆子どもの思いを理解し、子どもの目線にたって、成長を支援できる大人を増やす取り組みを行います。	①家族でのコミュニケーションを深めるきっかけづくりとして、「笑顔の写真展」を実施した。	H23.11～H26.3
	②「たかはま子ども市民憲章誕生 10 周年」を記念し、子どもと大人の関係を考える委員会と協働で、冊子「おとなもこどもも」を発行した。	H26.3
☆個々の実情に応じた相談体制や各種講座を充実させ、子どもが健やかに育つ環境を整えます。	①いちごプラザ、各支援センターによる各種講座や相談事業を実施し、ポータルサイト等を利用したＰＲ活動を行った。	H23.4～H26.3

Ⅲ．課題と今後の取組みの方向性

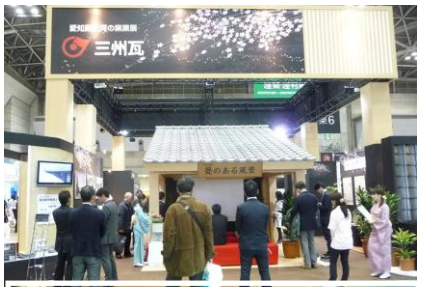
課題	今後の取組みの方向性
（１）多様化する保育ニーズへの支援施策の展開 ・待機児童への対応をはじめ、多様で柔軟な保育サービスの展開が必要である。	✧ ニーズに即した保育サービスを充実するため、「子ども・子育て支援事業計画」の策定及びその実施に取り組む。
（２）子育て活動団体の継続的な活動支援 ・子育て活動団体の連携、継続的な活動の活性化には、子育て家庭との結び付きが重要である。	✧ 行政と子育て支援団体等の活動の連携が図れるよう、活動情報を一元的に収集・発信するポータルサイトを活用する。
（３）地域等による子どもの自主・自立の支援 ・異年齢・世代間交流を通じ、子ども同士で遊ぶ中で、自主性・社会性を育む場を提供していくことが必要である。	✧ 平成 27 年度子ども・子育て支援法本格実施に合わせ、学校のグランド以外にも児童センターや公園など地域の財を活用し、子どもたちが自由に遊べるような環境づくりに努める。

Ⅳ．第６次高浜市総合計画推進会議　コメント

・親が安心して子育てをしやすい環境を整えていくことは、若い世代の定住を促す意味でも大切な取組みである。ニーズは年齢によって様々だが、“高浜市らしさ”を活かしながら、これまで培ってきた支援体制を強化していただきたい。
・新たな行事を実施することが、必ずしもいいとは限らない。継続的に実施している事業を見つめ直すことも大切である。見直しをし、より良いものにしていくなど、今後につなげていただきたい。

目標（7）

まちの成長を支えるエンジンとして産業を元気にします



▲愛知県三河の窯業展

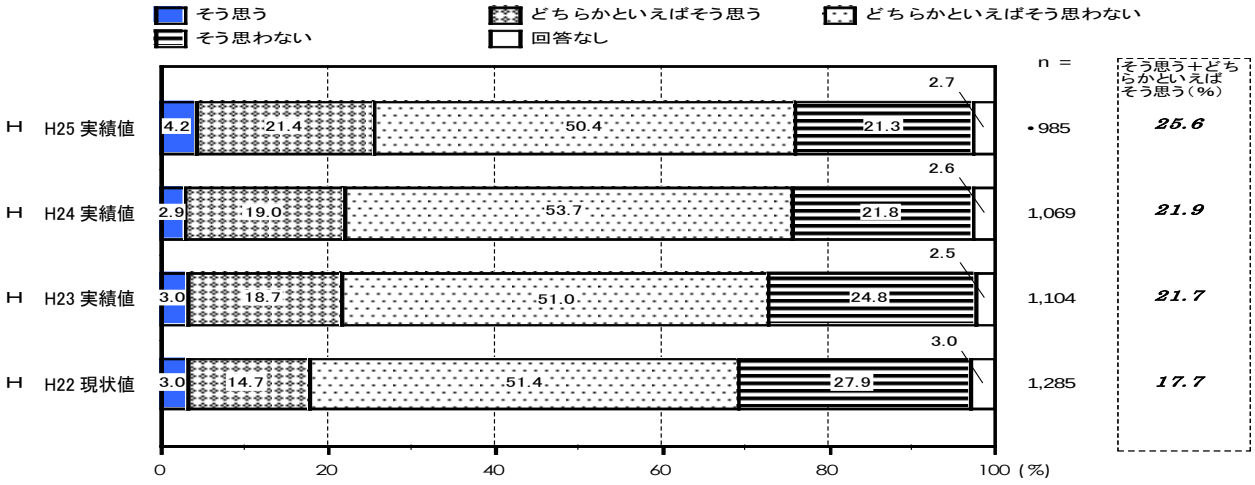
Ⅰ．目標と目標の達成状況

1．目指す姿

目標達成に向けての考え方	産業は、まちに活力を生み出し、市民の働く場の確保や所得を得る、消費の場となるなど安定した市民生活を支える基盤です。地域産業の振興、企業誘致の促進、企業や事業者の新たな取り組みや意欲・挑戦を応援していきます。
目標が達成された姿	◇ 企業や事業者が特色ある活動が活発になっており、市内の雇用が安定しています。 ◇ 地元の商店の売り上げが増加し、地域の消費者の支持を得られています。 ◇ 農地が活用され、人材確保が進み、地産地消の推進により経営基盤が強化されています。 ◇ 市内業者の受注機会が増え、売上が増加し、元気になっています。

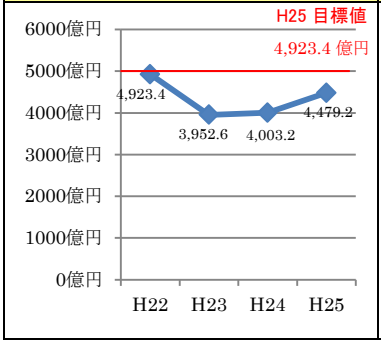
2．市民意識調査結果

【設問】まちの成長を支えるエンジンとして、産業が元気なまちだと思う

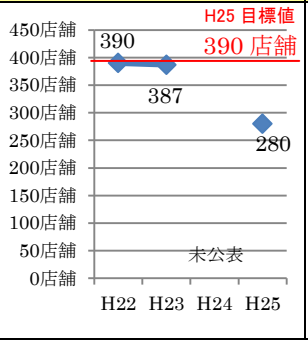


3．「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

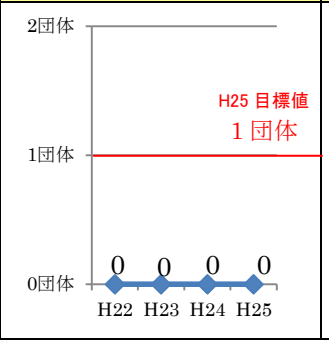
1）製造品出荷額等



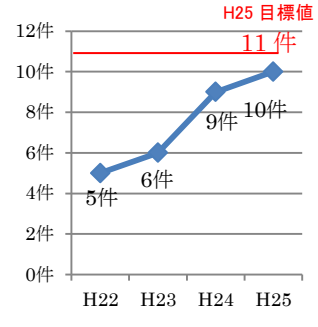
2）小売商店の店舗数



3）組織化・法人化した農業者団体の数



4）企業誘致制度を利用した件数



４．「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析（要因・課題等）
◆市民意識調査結果では上昇傾向を示しているが、第２次産業就業者の割合が高い本市の特性が表れていると考える。しかし、景気の動向によっては、将来的に産業の空洞化が懸念されるため、楽観は禁物である。 ◆指標のうち、１）製造品出荷額と２）小売商店の店舗数が減少している。これは、リーマンショック後の急速な景気の後退によるものと考えるが、現在は景気も回復傾向にあり、このことは、企業誘致制度利用件数の伸びに表れている。

Ⅱ．目標達成のための主な取組み

こんなことに取り組みます！	何を・どうした	いつ
★地域経済の振興を図るため、企業誘致を積極的に進めます。	①企業訪問を実施し、企業との信頼関係を築くとともに、企業ニーズを把握した。（訪問回数 206 回）	H23.4～H26.3
	②企業誘致等奨励制度のＰＲ、企業誘致に関する審査を行った。	H23.5～H25.6
	③工業立地の具現化に向け、関係機関や権利者との調整を行った。	H25.7～H26.3
★経営基盤、技術競争力の強化を目指す“がんばる事業者”（中小企業者）への支援を行います。	①「がんばる事業者応援制度」を実施した。	H23.4～H24.3
	②事業者ニーズを踏まえ、経営革新計画に基づく設備導入や販路拡大を目指した展示会出展費用の一部も補助対象とする「新がんばる事業者応援制度」を実施した。	H24.4～H26.3
★安定的な農業経営に向けての支援を行います。	①特産物開発プロジェクト会議を発足させ、青ナス、ジャンボ落花生、コールラビを特産野菜として試験栽培し、その普及を目指した。	H23.6～H26.3
	②吉浜地区で任意営農組合設立を支援し、任意組合が設立した。	H23.10
★公共工事や物品の調達について、市内業者が入札に参加しやすい環境を整えます。	①130 万円以上の公共工事について、市内業者限りの参加枠・金額区分等を見直した。	H23.6
	②50 万円以下の小規模工事について、簡単な入札参加資格登録申請制度を創設し、市内業者の登録勧奨を行った。	H23.6～H26.3
★時代に即した地場産業への支援を行います。 ☆三州瓦産地の伝統の継承のため、基盤づくりや販路拡大、多面的な利活用に向けた支援を行います。	①三州瓦販路拡大に向け、国内外の展示会出展を支援した。	H23.4～H26.3
	②宮城県岩沼市へ市長のトップセールスを実施し、愛知県陶器瓦工業組合において、今後、東北地域を販路拡大重点地区とした。	H24.8
	③三州瓦屋根工事奨励補助を実施した。	H23.4～H26.3
☆誰もが働きやすい仕組み・環境を整えます。	①緊急雇用創出事業基金事業や中小企業緊急雇用安定事業などを実施し、市内の雇用安定に努めた。	H23.4～H26.3
☆市内での消費が促進されるように、関係機関との連携を深めながら、事業者の魅力を引き出すような啓発活動を行います。	①一店逸品運動加盟店の周知、販売促進支援を行った。	H24.4～H26.3

Ⅲ．課題と今後の取組みの方向性

課題	今後の取組みの方向性
（１）地場産業への支援 ・三州瓦の出荷量の拡大につながる事業展開が必要である。	✧ 東北地域を販売促進の重点地区と位置付け、販路拡大、三州瓦ＰＲ事業等の支援を行う。 ✧ 愛知県陶器瓦工業組合が実施する災害復興住宅三州瓦採用補助制度に対し支援を実施する。
（２）工業用地創出 ・新たな用地創出に向けた調査・研究が必要である。	✧ 工業立地を具現化するために、関係機関との調整、事業計画や事業スケジュール、また、体制を整備する。
（３）事業者ニーズの把握 ・事業者が求めているニーズを的確に捉えながら現行の制度を見直し、新たな支援策等を検討する必要がある。	✧ 現行の新がんばる事業者応援制度を見直すとともに、商工会など事業者ニーズを踏まえた新たな制度を検討する。 ✧ 経営者からの声を踏まえ、営業力の強化を目的としたコンサルティング費用の一部補助を新メニューとして追加する。

Ⅳ．第６次高浜市総合計画推進会議　コメント

・工業用地創出は特に力を入れて取り組んでいただきたい。工場跡地が宅地になってしまっては、住民サービスが増えるだけで税収不足になる可能性がある。関係者と連携して体制を整備し、積極的に企業誘致を進めていただきたい。

目標（8）

地域に根ざした新たなビジネスの芽を育みます

▲鬼みちまつり

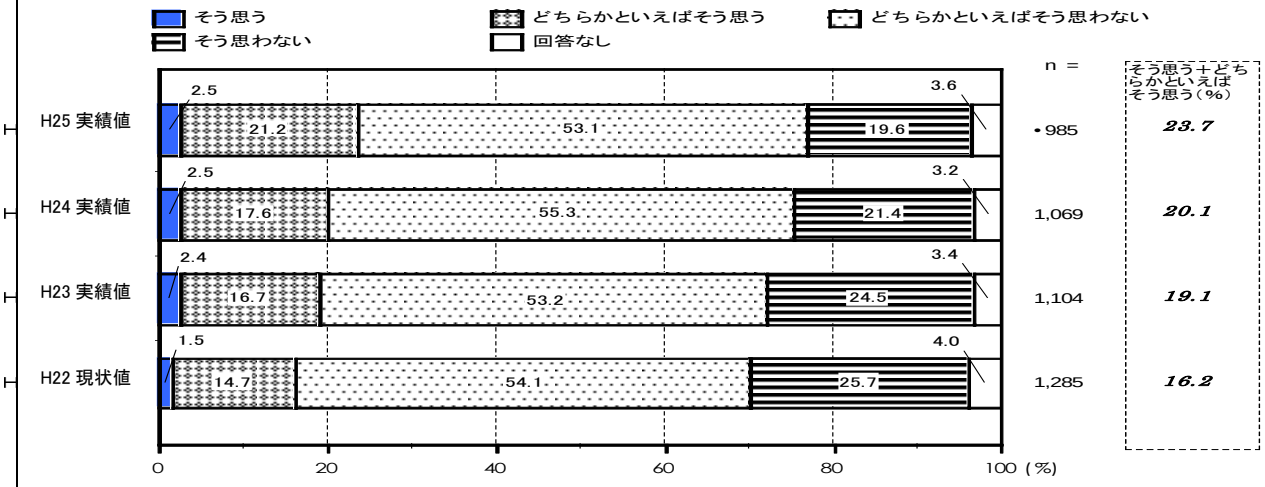
Ⅰ．目標と目標の達成状況

1．目指す姿

目標達成に向けての考え方	市民が主体となって、地域の課題をビジネスの手法によって解決し、人と人とのつながりを重視し、関わる人が喜びや楽しさ、いきがい、やりがいを感じながら、地域を豊かにしていく新たなビジネスの芽を育んでいきます。
目標が達成された姿	◇ コミュニティ・ビジネスに対する理解や関心が高まり、地域課題の解決を図ろうとする市民が自発的に行動しています。 ◇ 身近な課題解決につながるきめこまやかなサービスが市民の手により行われ、幸せだと感じる人が増えています。 ◇ 市民の手で地域資源が掘り起こされ、まちの魅力が高まっています。

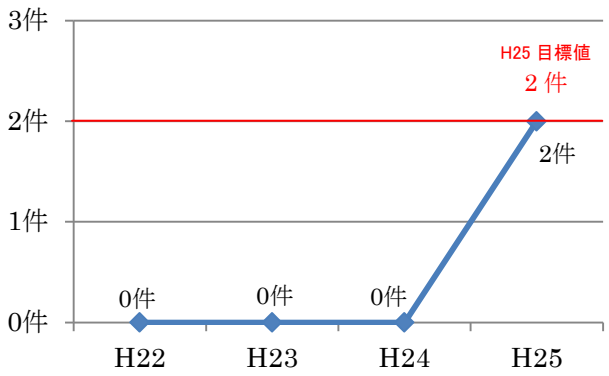
2．市民意識調査結果

【設問】地域に根ざした新たなビジネスの芽を育んでいるまちだと思う

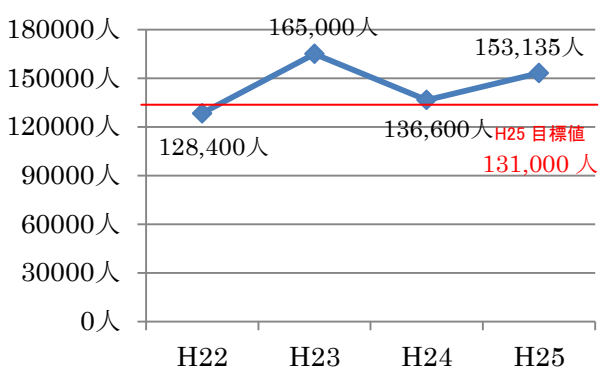


3．「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

1）コミュニティ・ビジネスの事業数（試験的運営含む）



2）まつり、イベントの来場者数（年間）



４.「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析（要因・課題等）
◆コミュニティ・ビジネスの事業数については、セミナーの開催により起業の下地ができつつあり、ビジネスの芽が芽吹きつつある。起業に向けたさまざまな課題はあるが、ビジネスの芽がさらに育まれるよう、支援をしていくことが大切である。 ◆まつり、イベントの来場者数については、Ｂ級グルメとして「とりめし」出展への支援を行ったことにより、新たな観光資源として定着し、その情報を県内外に発信したことや、鬼みちまつりの春・秋開催などにより、大きく伸びている。 ◆市民意識調査結果については、これらの取組みにより、上昇したものと考える。

Ⅱ．目標達成のための主な取組み

こんなことに取り組みます！	何を・どうした	いつ
★コミュニティ・ビジネスの創出に向けて、ＰＲ及び支援を行います。	①コミュニティ・ビジネス創業支援セミナーを実施した。	H23.12 ～H24.7
	②コミュニティビジネスアイデアプラン発表会を開催した。	H25.1
	③コミュニティ・ビジネス創業支援制度を開始した。	H25.4 ～H26.3
☆地域・事業者・関係団体と連携しながら、地域資源を掘り起こし、磨きをかけることによって、高浜市の“自慢”を育て、様々な手法によって発信します。	①各種団体と連携し、「秋の鬼みちまつり」のほか「春の鬼みちまつり」「タカハマ物語フェスタ」などのイベントを実施した。	H23.10 ～H25.10
	②「とりめし」のB-1 グランプリ出展を支援し、三州瓦などの高浜市の自慢のＰＲも合わせて行うことにより、まちおこしにつなげた。	H23.6 ～H26.3
	③名鉄高浜港駅前に「高浜市観光協会事務局兼案内所」を設置し、その後、かわら美術館駐車場に「高浜市観光案内所 ONI－House（オニハウス）」を設置した。	H24.4 ～H26.3

Ⅲ．課題と今後の取組みの方向性

課題	今後の取組みの方向性
（１）地域資源をつなぎ、まちの魅力を高める取組み ・地域資源は数多くあるが、発信不足であったり、十分に活用できていない。	✧ 市民や各種団体、商工会や観光協会といった関係機関と連携し、おもてなしの心を育みながら、「見る」「食べる」「買う」「楽しむ」場としての魅力に磨きをかけ、誘客や消費に結びつくような取組みを進める。 ✧ 地場産業である三州瓦を高浜の観光と繋げる取組みとして、「高浜市観光案内所 ONI－House（オニハウス）」において三州瓦の展示・紹介、瓦製品の販売を実施していく。
（２）コミュニティ・ビジネス運営の支援 ・創業したコミュニティ・ビジネスが自立した継続的な運営ができるよう、フォローアップが必要である。	✧ 創業しようとする事業者に対し、継続的に事業運営できるよう、創業支援制度の周知を図るとともに、アドバイスや更なるネットワーク形成などにより、フォローアップを行う。 ✧ 事業者への「地域ぐるみ」の応援が必要であることから、「地域」「企業」「行政」がそれぞれのセクターの垣根を越えて創業者との連携促進を図る機会を設け、理念や方向性のマッチングを行う。

Ⅳ．第６次高浜市総合計画推進会議　コメント

・例えば「鬼みちまつり」などの日程について、市や観光協会のホームページに掲載されていない。日程が毎年流動的なため、多くの方に高浜市へお越しいただくためには、日程告知などを早めに行うなど、情報発信に関して細かな配慮をおろそかにしない必要がある。

目標（9）

みんなでまちをきれいにします

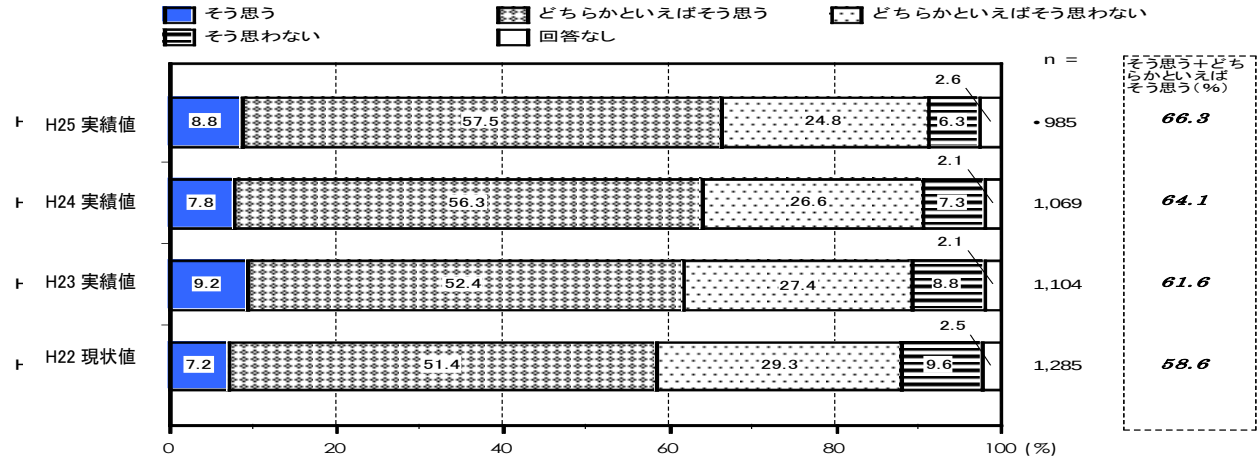
▲分別収集体験

Ⅰ．目標と目標の達成状況

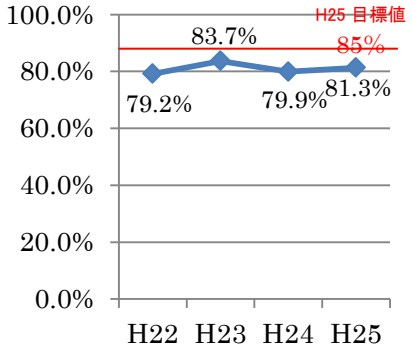
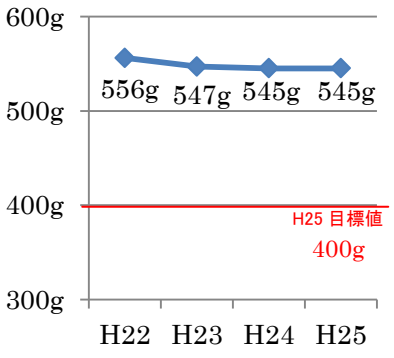
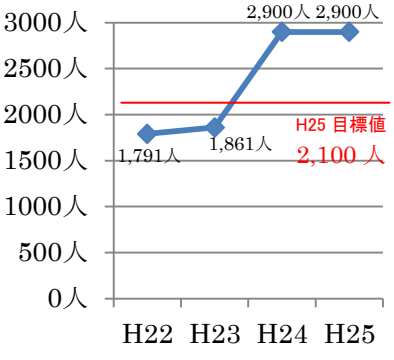
1．目指す姿	
目標達成に向けての考え方	人類の共有財産である地球環境を守るため、一人ひとりが地球環境に対する意識を高め、地域・学校・事業者・関係機関と力を合わせて環境に配慮した取り組みを実践し、環境の負荷が少ない、快適できれいなまちを、次世代に引き継ぎます。
目標が達成された姿	◇ 地球環境に対する意識が高まっています。 ◇ 資源化が進み、ごみの量が減っています。 ◇ ごみの散乱がなく、きれいで住みやすいまちになっています。 ◇ 環境に配慮して行動する市民、事業者が増えています。

2．市民意識調査結果

【設問】みんなで環境美化・保全に取り組んでおり、きれいなまちだと思う



3．「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

1）日ごろから省エネや省資源など環境に配慮した生活をしている人の割合	2）1人1日あたりの家庭系ごみ排出量	3）環境美化推進員の人数
		

４.「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析（要因・課題等）
◆「指標」結果から、目標の「みんなでまちをきれいにします。」は着実に進んでいるが、１ 人 １ 日あたりのごみ排出量の達成は困難な状況である。 ◆「指標１」は計画策定時より増加している。ホームページで環境省の「みんなで節電アクション」、「家電の節電対策メニュー」を紹介したことによるものと捉えており、継続的な情報提供が必要である。 ◆「指標２」は、平成 23 年度に発行した「高浜市ごみ分別便利帳」により一定の効果があったものと考え、分別便利帳の改定など、さらなる資源回収のＰＲ強化が必要である。 ◆「指標３」は目標値に比べ増加しており、事業者の登録が主な増加要因である。目標達成のためには事業者の地域貢献意識の高まりから事業者へのＰＲ強化が必要である。

Ⅱ．目標達成のための主な取組み

こんなことに取り組みます！	何を・どうした	いつ
★「高浜市みんなでまちをきれいにしよう条例」を推進します。 ☆地域・学校・事業者・関係機関と連携した環境美化活動、環境保全活動を積極的に進めます。	①市内小学校での環境学習を実施した。	H23.4 ～H26.3
	②高浜エコハウスで、小学生を対象とした環境学習（分別大相撲）を実施した。	H23.4 ～H26.3
	③環境美化推進員登録を呼びかけ、活動を支援した。	H23.4 ～H26.3
★環境に配慮した街灯・防犯灯・公園灯を設置します。	①まちづくり協議会や町内会と、防犯灯の設置位置等について協議した。	H23.6 ～H24.8
	②市内にある約 2,000 灯の既存防犯灯を 20 ﾜｯﾄ蛍光灯から 10 ﾜｯﾄＬＥＤ灯に切り替え、新規の防犯灯はＬＥＤ灯で設置した。	H23.12 ～H26.3
☆「高浜市ごみ処理基本計画」に基づき、ごみの減量化に取り組みます。	①市民会議 環境・憩いの場分科会と協働で、高浜市ごみ分別便利帳を編集・発行した。	H23.12
	②「高浜市 新ごみ処理基本計画」を策定した。	H25.4 ～H26.3

Ⅲ．課題と今後の取組みの方向性

課題	今後の取組みの方向性
（１）目標が達成された姿「地球環境に対する意識が高まっています。」について ・地球環境問題について、各世代が学べる環境づくりが必要である。	✧ 愛知県が平成 25 年６月に策定した「環境基本計画」に準じた環境学習を実施する。 ✧ 愛知県が実施する「Ｓｔｏｐ温暖化教室」を小中学校と連携して実施する。
（２）目標が達成された姿「資源化が進み、ごみの量が減っています。」について ・「ごみの減量（リデュース）」と、「再利用（リユース）」のさらなる取組みが必要である。	✧ 資源化を推進するため、小売店での回収、分別収集特別拠点の増設など資源回収の機会を増加させる。 ✧ リサイクル率向上に効果のある集団回収について調査し、そのあり方を見直す。 ✧ 高浜エコハウスで実施している「分別大相撲」を小学校で開催し、子どもから大人へ啓発できる仕組みづくりを行う。
（３）目標が達成された姿「ごみの散乱がなく、きれいで住みやすいまちになっています。」について ・不法投棄現場の監視体制の検討、環境学習を実施し、子どもたちの力を借りた対策の検討が必要である。	✧ ごみの散乱がひどい、ごみステーションなどの現場について、定期巡回、スポットライト設置など、地域と連携して試行的対策を実施し、効果のあるものについて広く展開する。 ✧ 不法投棄情報を公開する仕組み、不法投棄防止に効果のある防犯カメラの設置を検討する。 ✧ 各学校が行っている学校周辺の清掃活動を広く周知し、不法投棄の抑制を図る。

Ⅳ．第６次高浜市総合計画推進会議　コメント

・指標１）環境に配慮した生活をしている人の割合は 80%という非常に高い意識レベルになっている。あとの 20%をどうやって減らしていくかが課題である。市民会議分科会は、今後も毎月勉強会を開催するという形で継続し、市民に対するさらなるレベルアップに向けた啓蒙活動を進める。また、不法投棄をする人をいかに減らしていくかを中心に取り組む必要がある。

目標（１０）

ハーモニーを奏でる 快適な都市空間をつくります

▲上空から高浜市東部地区・北部地区を臨む

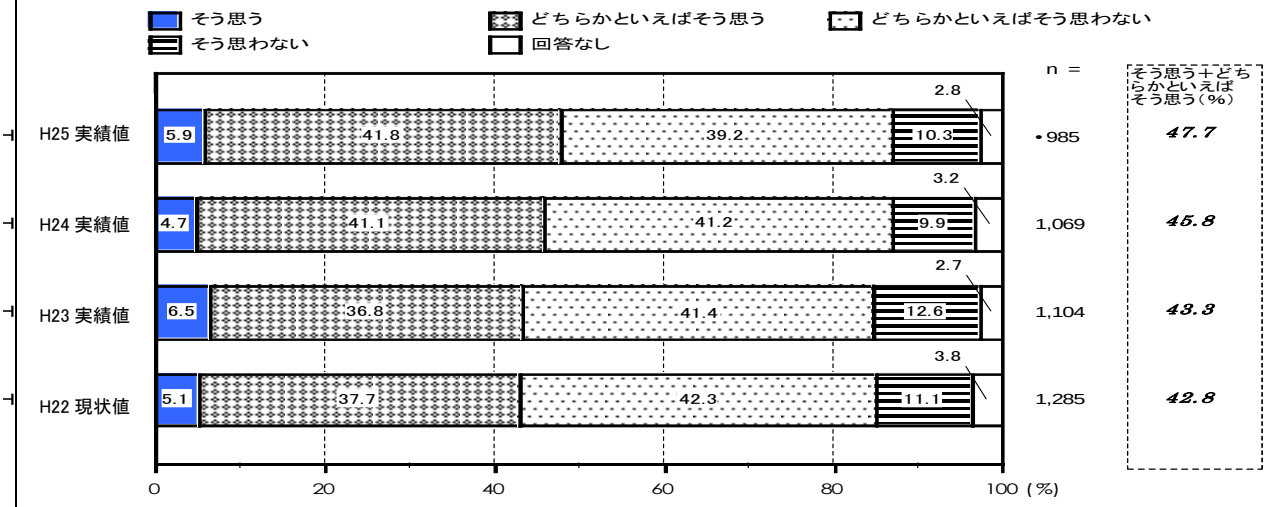
Ⅰ．目標と目標の達成状況

１．目指す姿

目標達成に向けての考え方	住み続けたいと思える快適さとやすらぎのあるまちづくりのために、その骨格となる交通網、良質な住環境や充実したライフラインなど、都市を形成するそれぞれの要素を調和（ハーモニー）させていきます。
目標が達成された姿	◇ 安心して楽しく暮らせる住環境、ライフラインの整備が推進されています。 ◇ 誰もが日常生活において、スムーズに移動できる環境づくりが行われています。 ◇ 地域資源を活かした魅力あふれる景観が形成され、まちに対する愛着や誇りが高まっています。

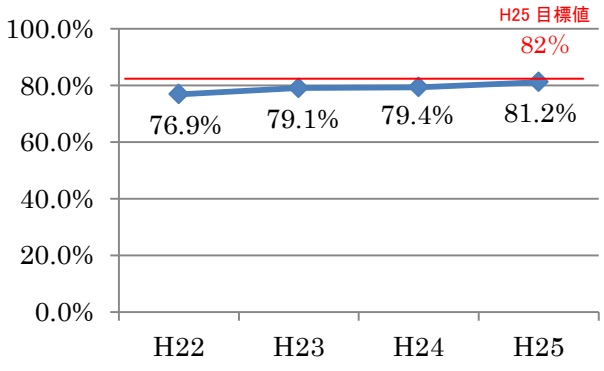
２．市民意識調査結果

【設問】調和の取れた土地利用が図られ、安全・快適で移動しやすいまちだと思う

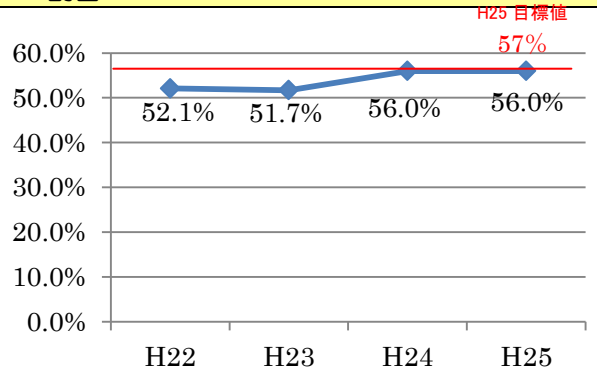


３．「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

１）長く住み続けたいと思う人の割合



２）歩きやすい、運転しやすいと感じている人の割合



4．「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析（要因・課題等）
◆ 総合計画によって展開されている様々な事務事業の取組みに加えて、安心で快適な生活の要件である水道事業の水道管の耐震化、下水道事業（汚水）の使用区域の拡大等の取組み等が計画的に進んでいるため、計画策定時から指標 1 は 4.3%アップ、指標 2 は 3.9%アップ、市民意識調査は 4.9%アップと、それぞれ目標値に向かって順調に上昇した。 ◆ しかし、現在事業を進めている、国道 419 号、市道港線等の道路事業は、事業期間が中長期にわたるため、短期期間での効果が現れにくいと考えられる。

Ⅱ．目標達成のための主な取組み

こんなことに取り組みます！	何を・どうした	いつ
★衣浦大橋東交差点の立体化により、交通の円滑化と安全対策の向上を進めます。	①愛知県知立建設事務所の発注により、橋台・橋脚・桁製作などの工事が進められた。	H23.4 ～H26.3
	②衣浦豊田道路建設推進協議会（６市：高浜・豊田・碧南・刈谷・安城・知立）において、国・県へ事業予算の確保と早期完了を要望した。	H23.4 ～H26.3
	③高浜市の未来を創る市民会議において、立体橋の桁色のアンケートを実施し、「黄土色」に決定した。	H24.9
☆「高浜市都市計画マスタープラン」に基づき、地域の特性に応じた土地利用や魅力ある景観づくりを進めます。	①市街化区域における未利用地の調査を行った。	H23.4 ～H24.3
	②都市計画道路の未整備区間についての調査を行った。	H23.4 ～H24.3
	③新たな工業用地の創出に向けた調査・検討を行った。	H24.10～ H26.3
☆安心で快適な住環境やライフラインの整備を進めます。	①耐震管の入れ替えといった水道施設の近代化や、汚水管の整備を進めた。	H23.4～ H26.3
☆安全・快適・便利に移動できるよう交通網を整えるとともに、公共交通の利用も促進します	①いきいき号刈谷豊田総合病院直行便を開通した。	H23.7
	②市道港線の整備に向けて、測量・設計・調査や用地取得、物件補償を行った。	H23.9～ H26.3
	③いきいき号コース見直し（停留所の増設）を行った。	H24.4

Ⅲ．課題と今後の取組みの方向性

課題	今後の取組みの方向性
（１）長期的な視点と国・県等との連携 ・事業完了までには長期を要する。また、事業推進には、市単独では困難であり、国・県・関係機関との連携が欠かせない。	✧ 国・県等の関係機関と連携しながら整備を進める。 ✧ 市の財政状況を踏まえ、計画的に整備を進める。
（２）長寿命化に向けた取組み ・安全で快適に道路を利用できるよう、適切に維持管理を行う必要がある。	✧ 安全性の徹底調査・点検を踏まえて長寿命化対策計画を策定し、「点検→診断→措置→記録」といったメンテナンスサイクルを確立する。
（３）行政バスの広域利用の促進 ・衣浦定住自立圏共生ビジョンに基づく公共交通のあり方について検討する。	✧ 刈谷・知立・高浜・東浦の各市町の拠点間を結ぶバス創設について、研究を行う。

Ⅳ．第６次高浜市総合計画推進会議　コメント

・安全で快適な道路の長寿命化の取組みについては、コストパフォーマンスに加え、防災、防犯の面からも大切な取組みである。現場へ行けば、何かがみえてくる。行政は現場の定期的チェックを含め、是非メンテナンスサイクル遂行をしていただきたい。

目標（１１）

自然豊かな魅力あふれる 憩いの場を守り、育てます

▲「さわたり夢広場」の花壇の手入れ

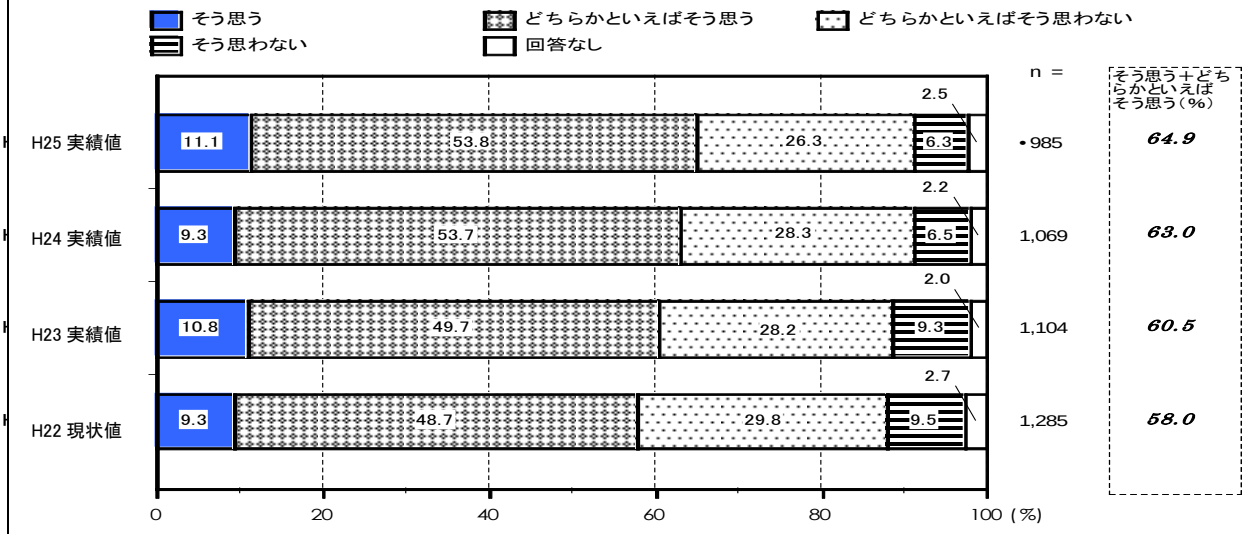
Ⅰ．目標と目標の達成状況

１．目指す姿

目標達成に向けての考え方	地域資源や公園・緑地、水辺をネットワークとしてつなぐことにより、地域の魅力向上や自然と調和した都市環境をつくっていきます。
目標が達成された姿	◇ 公園などが市民の憩いの場として愛されており、「自分たちの公園」という意識が高まっています。 ◇ 四季を通じて心にうるおいと安らぎを与える環境が整い、健康づくりや憩いの場として活用され、笑顔とにぎわいであふれています。 ◇ 町中が花や緑であふれ、鳥や魚が喜ぶ自然環境が保たれています。

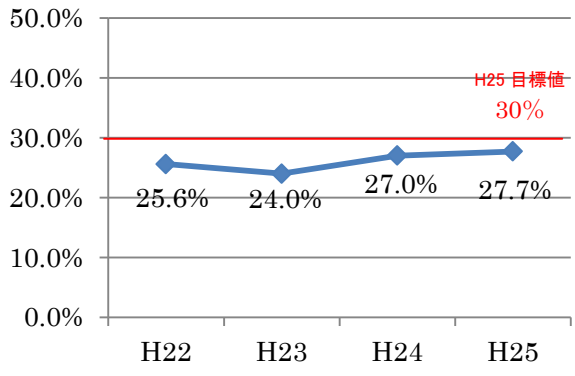
２．市民意識調査結果

【設問】公園・緑地や水辺など自然豊かな魅力あふれる憩いの場を守り、育てているまちだと思う

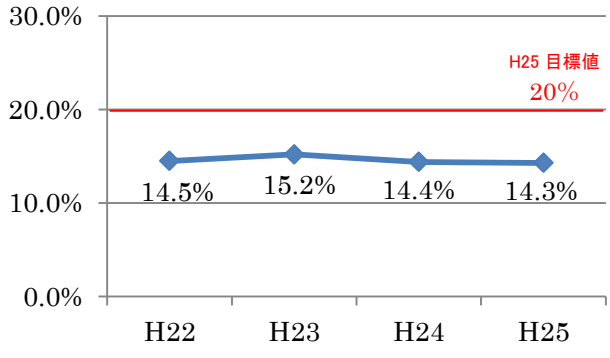


３．「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

１）公園・緑地、街路樹や水辺空間づくりに参加したことがある人の割合



２）公園をよく利用する人の割合



4.「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析（要因・課題等）
◆ 指標１の「公園・緑地等の空間づくりに参加したことがある人の割合」は増加しているが、目標値には達しなかった。地域活動を通して実施されている、公園清掃、水辺（稗田川）の植栽活動、街路樹里親管理などの取組みの情報の積極的な提供が不足していたのではないかと思われる。 ◆ 公園づくりや水辺の維持管理等に汗を流す市民が増えていくことによって、「自分たちの公園・水辺・緑」という愛着意識が高まるとともに、地域の特性に合った憩いの空間が育まれ、公園等の利用回数の増加にもつながっていく。地域と連携しながら活動の輪を広げていくことが重要である。

Ⅱ．目標達成のための主な取組み

こんなことに取り組みます！	何を・どうした	いつ
★衣浦湾の自然環境を保全し、海浜レクリエーションの場として、高浜緑地の整備を進めます。	①衣浦港高浜緑地の造成工事について、公共残土を利用した埋立工事が完了した。	H24.1
	②事業主体である県と「（仮称）高浜緑地」の整備方針の協議を進めた。	H24.4 ～H25.3
	③愛知県（衣浦港務所）の発注で「（仮称）高浜緑地」の多目的広場利用の基本設計を進めた。	H25.4 ～H26.3
☆「高浜市緑の基本計画」に基づき、地域と連携しながら、特性を活かした公園・緑地、街路樹や水辺空間の整備・保全を行います。	①市内のまちづくり協議会､NPO やボランティア団体等と連携し、公園・緑地・街路樹や水辺空間の保全活動を実施した。	H23.4 ～H26.3
	②住民参加型の公園づくりワークショップを実施し、「（仮称）論地どんぐり公園」の基本設計を行った。	H25.3 ～H25.7
	③「（仮称）論地どんぐり公園」ワークショップ最終案を基に、造成工事を発注した。	H26.3

Ⅲ．課題と今後の取組みの方向性

課題	今後の取組みの方向性
（１）高浜緑地上部の有効活用方法の検討 ・整備と並行して、緑地上部の有効活用方法を検討する必要がある。	✧ 地域のボランティア団体や各種スポーツ団体等と連携・調整し、住民意見を踏まえながら、地域の方々に愛され、老若男女の憩いの場となるような緑地の整備・維持管理を検討する。
（２）高浜ベイサイド計画（高浜貯木場跡地）活用方法の検討 ・愛知県が行う「衣浦港港湾計画の見直し」への繁栄に向けて、「高浜ベイサイド計画」の具体的・効果的と名る検討・調査が必要になる。	✧ 「高浜ベイサイド計画」（平成 21 年 3 月改訂）におけるイベント・マリンレクリエーションゾーンの事業推進に関する調査検討を進める。
（３）「自分たちの公園・水辺・緑」という愛着意識を高める取組み ・公園づくりや水辺の維持管理等に汗を流す市民を増やしていく取組みが必要である。	✧ 広報や回覧、チラシなどで、公園づくり等の活動内容・効果等の発信、各種団体への働きかけなどを丁寧に行うことにより、愛着意識を高め、参加者・利用者拡大につなげていく。

Ⅳ．第６次高浜市総合計画推進会議　コメント

・「公園・水辺・緑」の維持管理について、地域で取り組んでいる事例もたくさんあるが、これらは「まちづくり」の基本の一つであり、総合計画の各部門にも通ずる。「自分たちの公園・水辺・緑」と言う愛着意識が高まるよう、行政においても、しっかり取り組んでいただきたい。

目標（１２）

安全・安心が実感できる基盤づくりを進めます

▲総合防災訓練のようす

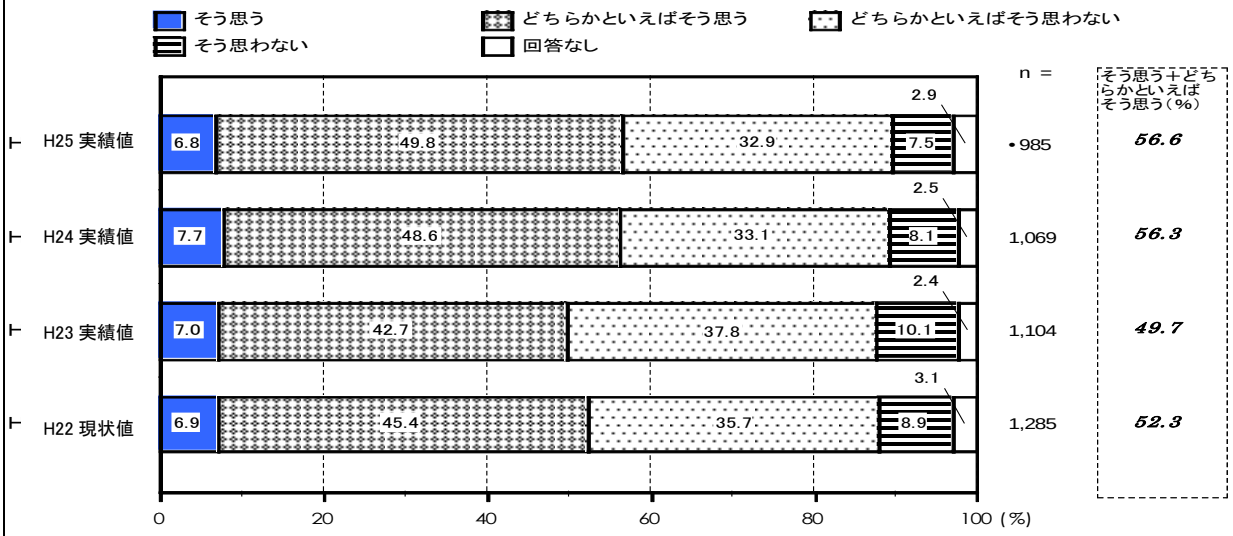
Ⅰ．目標と目標の達成状況

１．目指す姿

目標達成に向けての考え方	身近に起きる犯罪や大地震、台風、集中豪雨、伝染病などの危機から生命を守ることは、まちづくりの根幹に関わります。被害を最小限に食い止めるため、「自らの安全は自らが守る」、「地域の安全は地域で守る」という意識を持ち、市民・地域・行政がそれぞれの役割のもとに、危機・災害発生時の対応能力を高めていきます。
目標が達成された姿	◇ 誰もが安心で安全だと感じながら暮らしています。 ◇ 防犯・防災意識が向上し、市民・地域・事業者・関係機関と連携して、防犯・防災活動に取り組んでいます。

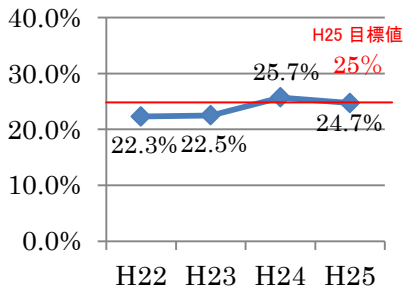
２．市民意識調査結果

【設問】安全・安心が実感できる防災・防犯対策が進められているまちだと思う

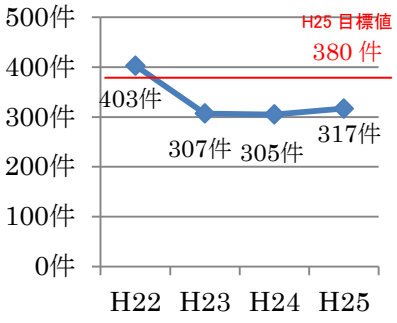


３．「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

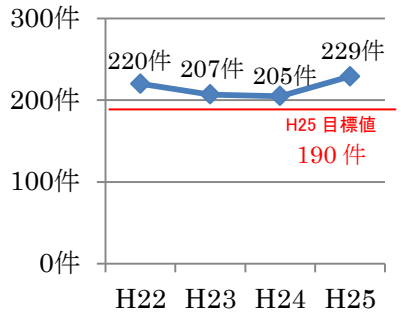
１）地震の備えができていると感じている人の割合



２）街頭犯罪発生件数（年間）



３）交通事故発生件数（年間）



4.「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析（要因・課題等）
◆市民意識調査結果では、東日本大震災後の自助意識の高まり等により、計画策定時よりも数値が上昇した。 ◆年代別でみると、10 歳代の「そう思う」「どちらかというとそう思う」は、全体の値と比べて３年間を通じて常に下回っている。逆に 60 歳代や 70 歳以上では、常に上回っている。 ◆今後、10 歳代など若年層を対象とした防災・防犯対策が必要である。

Ⅱ．目標達成のための主な取組み

こんなことに取り組みます！	何を・どうした	いつ
★災害等の緊急事態が発生した場合に、全市をあげて迅速かつ総合的に対応する危機管理体制を整えます。	①町内会、まちづくり協議会などと協力し、市総合防災訓練を実施した。	H23.9
	②沿岸部・稗田川周辺及び避難所に同報系防災行政無線を整備した。	H25.3
	③防災ラジオを有償配布し、防災情報（気象情報、緊急地震速報、津波情報、J-アラート情報）を提供した。	H25.10
★地域全体が連携できるように実践に即した防災ネットワークづくりを進めます。	①市民会議防犯・防災分科会協働で、電柱、避難所など、約 600 ヶ所に標高シール（標高の見える化）を設置した。	H24.3
	②町内会、まち協、地元企業、消防団などが参加した「防災ネットきずこう会 キックオフ講演会」を開催した。	H24.6
	③モデル地区（港小学校区）において、早朝津波避難訓練を実施した。	H24.11
☆事故・事件を未然に防ぐとともに、発生後に適切な対応を行うことができるよう、情報収集に努め、正確な情報を迅速に発信します。	①「パトネットあいち」の普及をはかるため、まちづくり協議会など各種団体に登録を呼びかけた。	H23.4 ～H24.3
☆地域や警察、関係機関と連携しながら、防犯活動や交通安全の啓発を行います。	①保育園、幼稚園、小学校、いきいきクラブ、企業等を対象に、交通安全教室などを開催した。	H23.4 ～H26.3
	②まちづくり協議会の青色防犯灯パトロールなど、防犯活動を実施した。	H24.4 ～H25.3
☆地域と連携して、防犯灯などの防犯施設やカーブミラーなどの交通安全施設の適切な維持管理を行います。	①市の点検や市民、地域からの通報を受け、防犯灯や交通安全施設（交通安全灯、カーブミラー等）の修繕を実施した。	H23.4 ～H26.3
☆治水対策や耐震化など、災害に強い基盤整備を進めます。	①木造住宅耐震診断費及び木造住宅耐震改修費補助を実施した。	H25.4 ～H26.3
	②小橋から中根橋の区間の内、一部区間において護岸改修を進めた。	H25.3 ～H25.9

Ⅲ．課題と今後の取組みの方向性

課題	今後の取組みの方向性
（１）防災に対する意識改革 ・震災後３日間を重点項目とした自主防災組織を構築する必要がある。 ・自助意識を高め、いざという時に行動できる力を高める必要がある。	✧ モデル地区を設定し、地域の特性に応じた総合防災訓練を実施し、その内容を検証・見直ししながら、実践力のある訓練につなげる。 ✧ HUG（避難所運営ゲーム）やクロスロードなど、様々な手法により防災行動力を高める取組みを進める。
（２）防災教育の推進 ・小中学生に対する防災教育が必要である。	✧ 教育委員会と防災担当部局が連携し、小中学生を対象とした防災教育の実施、学校防災の推進に向けた検討・調整を進める。
（３）地域防犯力を高める取組み ・地域や警察等と連携し、未然防止活動を行う必要がある。	✧ 防犯教室や防犯情報の発信などにより、自助意識を高める取組みを進める。 ✧ 地域や警察などと連携し、防犯パトロールやあいさつ運動、登下校時の見守りなどに取り組む。

Ⅳ．第６次高浜市総合計画推進会議　コメント

・いずれ災害は必ず来る。高浜市は最新の被害想定によると人口に対する死者が 0.65%、世帯数に対しての建物全壊・消失は 29.4%である。しかし、事前準備をある程度やっておけば必ず減災効果が出る。行政だけでなく、市民も危機管理意識を持つ必要がある。
・防災キャンプ実施時に「学校に避難しても車椅子の人はトイレに行けない」という意見があった。高齢化問題等を考えると、そういった意識・配慮も防災力の一つとして高めていくことも検討していただきたい。
・避難勧告や指示について「空振りは許されても見逃しは許されない」という意識で取り組んでいただきたい。また、市民も自衛意識を持つことが重要である。
・犯罪や災害などに対する体感不安が高まっている。防犯効果や安全・安心感は、地道な活動によって高まってくる。また、予算面の問題はあるが防犯カメラの設置についても、地域と相談しながら設置を検討してはどうかと考える。

目標（１３）
一人ひとりを認め合いその人らしく暮らせるまちづくりを進めます

▲ボッチャ大会のようす

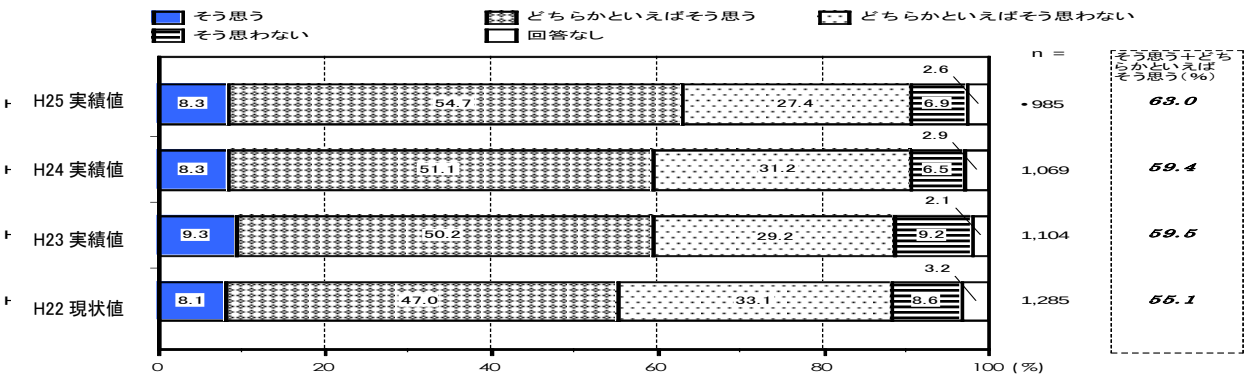
Ⅰ．目標と目標の達成状況

１．目指す姿

目標達成に向けての考え方	今、地域の中には、「近所に知り合いがいない」、「行き場がない」、「独り暮らしで病気になったときは不安」といった問題を抱え、地域で孤立する人が増えています。地域・事業者・関係機関と連携して、誰もが住み慣れた地域で、その人らしく、安心して心豊かに暮らせるまちづくりを進めていきます。
目標が達成された姿	◇ まちのあちらこちらで気軽にあいさつを交わしたり、交流やふれあいの光景が見られます。 ◇ 多くの市民が、地域での支え合いの担い手として活躍しています。 ◇ 障がい等のある方と障がい等への理解を深めた市民が、地域でともに支えあい、誰もが住み慣れた地域で、その人らしくいきいきとした生活を送っています。 ◇ 地域や関係機関と連携し、ともに支えあっていく福祉のネットワークづくりが進んでいます。

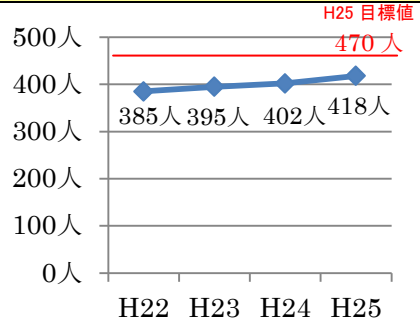
２．市民意識調査結果

【設問】一人ひとりを認め合い、高齢者や障がい者などがいきいき暮らすことができるまちだと思う

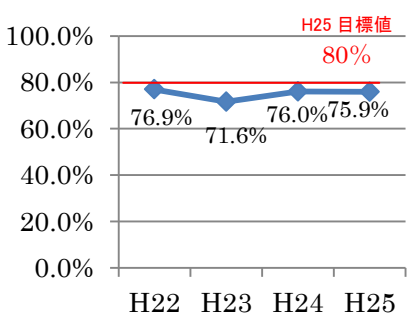


３．「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

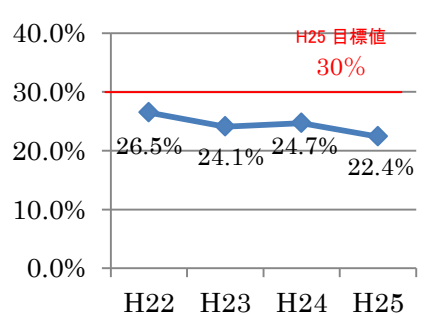
１）ボランティアひろばセンター登録数（人口１万人当たり）



２）不安や悩み事を身近に相談できる人や場所があると思っている人の割合



３）地域で高齢者や障がい者等の見守りや生活の手助けをしている人の割合



４．「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析（要因・課題等）
◆市民意識調査結果は伸びており、目標達成に向けての方向性に基づいた取組みの成果がでている。 ◆指標の１）は伸びているが、目標値には達していない。これは、いきいき健康マイレージの登録者数が見込みより少なかったためである。 ◆いきいき広場の相談件数は増加傾向にあるが、２）と３）の指標は減少傾向のため、今後は市民がより身近に感じられるような相談体制の構築と、地域における支えあいの意識を高める効果的な取組みが必要である。

Ⅱ．目標達成のための主な取組み

こんなことに取り組みます！	何を・どうした	いつ
★子どもの育ちを一貫して見守り、支援するため、こども発達センターを関係機関と連携して設置します。	①こども発達センターを開所し、臨床心理士、言語聴覚士、作業療法士及び発達専門相談員を配置した。	H23.4～H26.3
	②保健師や専門職による相談支援を実施した。	H23.4～H26.3
	③小学校就学前の健診機会として、新たに５歳児健診を実施した。	H23.6～H26.3
★チャレンジドの「働きたい」の実現に向け、支援体制を整えます。	①障害者相談支援事業所に、総合コーディネーターと就労担当相談員を配置した。	H23.4～H26.3
	②職場開拓に向け企業 121 社をリストアップし、順次企業訪問を実施した。	H23.7～H25.3
	③一般就労しているチャレンジドに対し、継続して就労できるように定着支援を実施した。	H23.6～H26.3
☆「高浜市地域福祉計画」に基づき、「つながり、支えあい、安心のしくみづくり」を進めます。 ☆地域や当事者などが連携して福祉イベントを創出するなど、福祉に対する理解を広く促進するとともに、顔が見える関係づくりを行います。	①地域における見守り等の担い手を育成するとともに新たな人材を発掘するための「生活支援サポーター講座」を開催した。	H23.4～H25.3
	②「ボッチャ大会」や「ボッチャ出前講座」などの実施を通して、交流の機会を創出した。	H24.11～H26.3
	③高浜南部まちづくり協議会と協働で「青空市」（買い物弱者への買い物支援策）を毎週日曜日に開催した。	H25.11～H26.3
☆手助けが必要な人に対して、地域や関係機関と連携して、各々の事情に合った適切な支援や相談を受けられる体制を整えます。	①要援護者の見守りとして各種ネットワークを構築した。	H23.8～H26.3
	②地域包括支援センター職員に地区担当制を導入し、まち協事業に参加した。	H24.4～H26.3
	③権利擁護推進センター設置に向けての検討会を開催した。	H25.3～H26.3

Ⅲ．課題と今後の取組みの方向性

課題	今後の取組みの方向性
（１）障がい者施策 ・生涯にわたって住み慣れた地域で不安なく生活できる環境整備が必要である。	✧ 緊急時や親亡き後も不安なく暮らせるよう、平成 28 年度を目途に、民間活力を導入し施設を整備するとともに、障がい者についての地域における理解や交流を促進するため、平成 26 年度から地域の中で交流できる場や活動機会を創出する。
（２）地域福祉の担い手養成と活躍の場の創出 ・地域で孤立し、困りごとを抱えながらも誰からの支援も受けられない方が増加しているが、その対策が十分でない。	✧ 地域で困りごと支援を行っていただく方の計画的な養成に取り組むとともに、具体的な支援の場を提供するなど、実際に活躍していただく場の創出に取り組む。
（３）認知症への対応 ・認知症を正しく理解し、認知症の人や家族を見守る必要がある。	✧ 生活機能評価の実施など、認知症を早期発見・早期支援する取組みを進める。 ✧ 相談支援体制の充実に向け、権利擁護推進体制を構築する。 ✧ 計画的に「認知症サポーター」養成講座を実施する。

Ⅳ．第６次高浜市総合計画推進会議　コメント

・ジョブサポーター、生活支援サポーター養成講座、認知症サポーター研修といったサポーター育成に力を入れているが、受講者をボランティア登録につなげることを期待している。また、登録するだけではなく、その方たちが連携をして活動できる仕組みについても、今後徐々に増やしていけるとよい。
・福祉まるごと相談グループやこども発達センターが設置され、どこに相談に行けばいいか不安に思っている方にとって、わかりやすくなった。特に、若いお母さんたちは様々な不安を持っており、受け止める仕組みがとても充実していると感じる。今後も充実させていただきたい。

目標（１４）

一人ひとりの元気と健康づくりを応援します

▲健康体操のようす

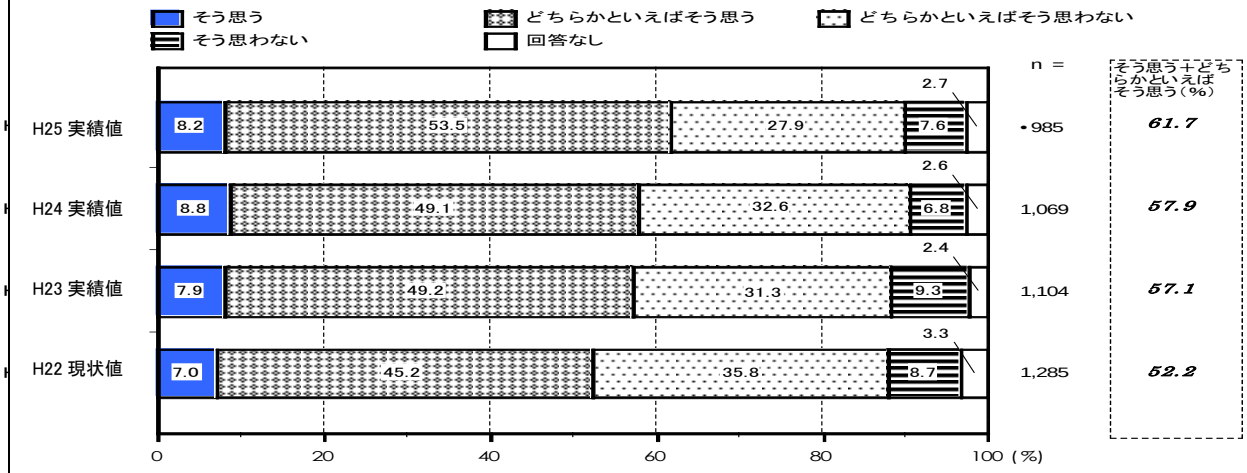
Ⅰ．目標と目標の達成状況

１．目指す姿

目標達成に向けての考え方	誰もが健やかに生きがいを持ち、はつらつと生活していくためには、何よりも健康が大切です。健康は自分でつくり、守るものですが、個人の健康を支援する地域、事業者、関係機関の役割も重要であることから、ともに健康づくりをバックアップしていきます。
目標が達成された姿	◇ 健康や介護予防に関する知識が身についています。 ◇ 毎日、健康づくり活動が地域で展開されています。 ◇ 一人ひとりが「かかりつけ医」を持ち、自分の体質・体調・病気について相談することができます。 ◇ 健康診査受診率が向上し、早期発見・早期治療ができ、健康寿命が伸びています。

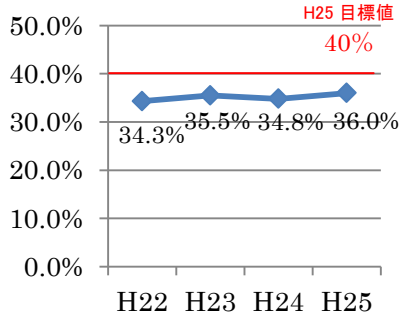
２．市民意識調査結果

【設問】一人ひとりの元気と健康づくりを応援しているまちだと思う

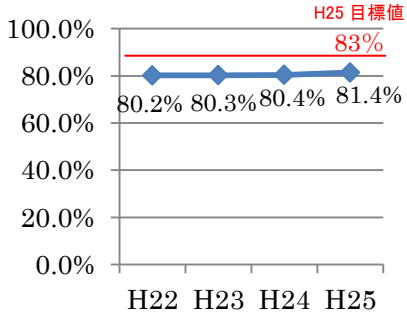


３．「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

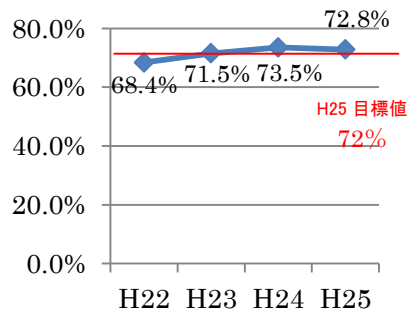
１）日常的に運動やスポーツを行っている人の割合



２）栄養や食生活に気をつけている人の割合



３）かかりつけ医を持っている人の割合



４.「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析（要因・課題等）
◆目標を「応援」するための柱としての「達成指標」を＜運動＞＜栄養＞＜医療＞としている。この３本の柱の指標を達成するためには、①情報や知識　②健康づくりを始める行動のきっかけ　③行動を続けるための仕組みや環境　が必要である。 ◆指標全てにおいて現状値からの向上が見られたものの、目標値に達していない指標もある。

Ⅱ．目標達成のための主な取組み

こんなことに取り組みます！	何を・どうした	いつ
★「シニア大学」などの学習の機会の提供や、高齢者の健康づくりやボランティア活動に対する新たな支援制度を構築し、生きがいと健康づくりを応援します。	①高浜市いきいき健康マイレージ活動を開始した。（ポイント付与開始）	H23.5 ～H26.3
	②高齢者の居場所である「健康自生地」の認定を開始した。	H25.9 ～H26.3
	③情報誌「まいにちでかける でいでーる」の刊行及びホームページ「たかはま元気 de ねっと」の運用を開始した。	H25.10 ～H26.3
★地域密着型施設など、高齢者の実態を踏まえた介護サービスを提供します。	①介護保険審議会において、施設整備を位置づけ、第５期事業計画に反映した。	H23.4 ～H25.3
	②事業者の公募、選定委員会の開催、事業者の決定を行った。	H24.4 ～H24.6
	③地域密着型小規模特別養護老人ホームの事業運営を開始した。	H25.4～
☆医療機関それぞれの役割分担のもと、連携を促進し、地域医療体制を充実します。	①定住自立圏共生ビジョン懇談会で、地域医療ネットワークの構築に向けて協議を行った。	H23.4 ～H24.3
	②医療機関と刈谷豊田総合病院とのネットワークの接続を開始した。	H24.10～
	③パンフレット「上手なお医者さんのかかり方」を作成し、ＰＲを開始した。	H25.1～
☆生涯を通じて健全な食生活を実践し、自らの健康を守るため、学校や地域などあらゆる場所や機会を通じて、食育を推進します。	①幼保学校等で食育ガイドラインを中心とした各種啓発を実施した。	H23.4 ～H26.3
	②カワラッキー賞の実施及び食育発表会を開催した。	H23.8 ～H26.3
	③食育ガイドライン（学齢期版）の見直しを行った。	H25.4 ～H26.3

Ⅲ．課題と今後の取組みの方向性

課題	今後の取組みの方向性
（１）いきいき健康マイレージ制度の充実 ・参加（登録）人数を増やすとともに、生涯現役のまちづくりや New ボランティア人と連動した取組みが必要である。	✧ 一人ひとりが役割を持って生きがいが見つけられるよう、健康自生地をはじめとした、新たな担い手の発掘や育成に取り組むとともに、制度を見直して充実を図る。
（２）地域医療ネットワークの利用促進 ・より多くの市民に利用していただけるようＰＲを行う必要がある。	✧ より多くの市民に地域医療ネットワークを利用していただけるよう、その仕組みや利便性をＰＲする。
（３）高齢者の居場所及び生きがいづくり ・自宅に閉じこもりがちな高齢者が増えている。生活が単調で不活発になると、認知症に陥るリスクが高まる。	✧ 介護保険制度の見直しに先駆け、要支援サービスが受けられなくなる人たちの受け皿づくりとして、また、高齢者が自分らしく生きがいを持ち、尊厳のある活発な暮らしを実現させるために、生涯現役のまちづくりを推進していく。

Ⅳ．第６次高浜市総合計画推進会議　コメント

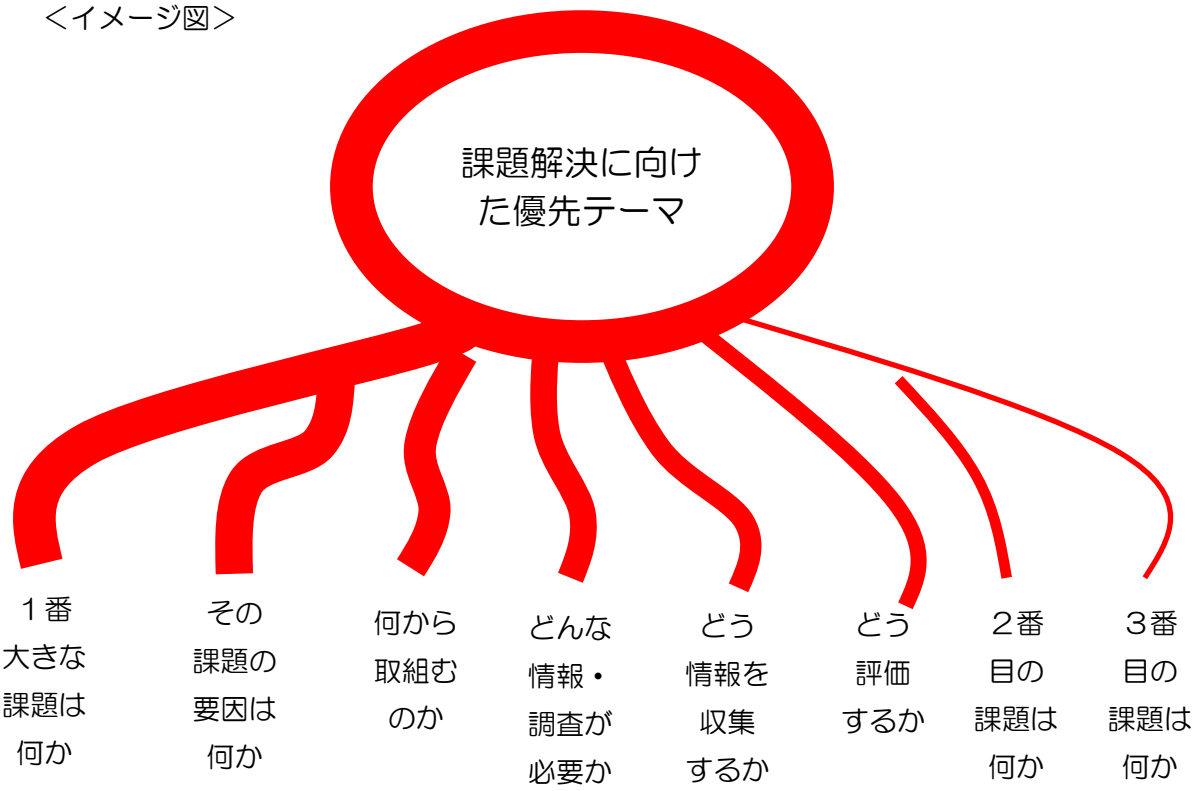
・市民意識調査結果が、計画策定時と比べ大きく向上した。健康マイレージや生涯現役のまちづくり（健康自生地）の取組みが功を奏したのではないかと思われる。これらの事業は自分で目標を設定することができ、また仲間とつながり合い、楽しみながら健康づくりに取り組めるものである。今後も、これらの事業をますます中身のある、生きたものにしていただきたい。

第６次高浜市総合計画推進会議　コメント【目標全般】

・それぞれのテーマに対する評価は、確実にレベルアップしている。実績の要因解析や今後も取組課題も見える化されており、行政の努力が評価シートに表されている。市民意識調査の回収率が 50%以上になるよう、対策の検討が必要である。

・「今後の取組みの方向性」について、優先度を決めるとともに、それぞれの課題は関連しあっていることもあるため、何が課題で最初に取り組むことは何かなどを、図解表示（例：タコ足手法）するとわかりやすいと思われる。

＜イメージ図＞



・市民・行政・議会の三者が意見交換できるような場があると、計画と実行に対して、市民全体の理解度も高まり、あるべき姿も認識しやすくなるのではないか。

・情況の変化によっては、計画期間中に計画内容の見直し（例：目標値の変更）を行うことがあってもよいと考える。その方が、行政全体の PDCA が有効であるように感じられる。

・行政と市民が徐々につながり始めたと実感しているし、行政内部でＰＤＣＡを回すことが習慣づいた。それが、前期計画推進の力になったと思う。

・部局間連携をすればもっと相乗効果が出るのではないか。例えば、教育と土木が手を結んだらどうなるのか、福祉と環境が手を結んだらどうなるのかといった可能性を開発すると、もっとバランスのとれた市政運営ができるのではないかと感じている。

4

前期から中期へ
つなげていくために

「３．基本計画【前期】の総括」で洗い出した課題を、
基本計画【中期】にどのように反映し、推進していくかをまとめました。

【前期】

前期の目標	前期の取組みから見えてきた課題	今後の取組みの方向性
目標（1） 市民とともに歩む経営を行います	（1）市民との協働による総合計画の進行管理のあり方	✧ 市民会議は前期で終了。「市民とともに進行管理を行う」精神を引き継ぎ、「総合計画推進会議」などで市民と行政が対話を重ねながら、進行管理を行う。 ✧ 総合計画のみならず、市民と職員がともに高浜市の将来について考える場「アシタのたかはま研究所」を設置・運営する。
	（2）「参画・協働・情報共有ガイドライン」の策定と具体的なアクションの展開	✧ ガイドラインに基づき、全職員の意識を高め、各部署において具体的なアクションを展開する。 ✧ 市公式フェイスブックの立ち上げ、「広報たかはま」への市民参加手法の取り入れなど、「キャッチボール型」の情報発信・情報共有の取組みを強化する。
	（3）行政評価システムの検証・見直し	✧ より効果的かつ効率的で、シンプルな仕組みを検討する。
目標（2） 次世代のために健全な財政運営を行います	（1）事業の優先順位づけ・選択の仕組みの構築	✧ これまで経験してきた「高浜版事業仕分け」や「行政評価」の経験を基に、「行政サービスのあり方」について調査・検討する。
	（2）公共施設に関する計画を踏まえた財政運営	✧ 「公共施設あり方計画（案）」を踏まえ、「長期財政見通し」を策定し、検証・見直しを行う。PDCAサイクルによる計画の見直しができる仕組み作りを検討する。 ✧ 市民にわかりやすく財政情報を提供する。自主財源の確保や受益者負担の適正化の観点から「受益と負担」の設定基準をつくる。
	（3）効率的な行政サービスの提供	✧ 定住自立圏共生ビジョンに基づき、広域連携を推進する。 ✧ 行政運営の効率化については、職員力の更なる向上と合わせて一体的に取り組む。
目標（3） 市民と行政が信頼関係を深め、ともにまちづくりを行います	（1）自治基本条例の精神の普及	✧ 「出前授業」を高浜カリキュラムに組み込み、総合学習の集大成として、地域との協働により全小学校での実施を定着させる。 ✧ 「参画・協働・情報共有ガイドライン」に沿った具体的なアクションを各部署で展開する。
	（2）現場の声を踏まえて、市民による主体的なまちづくり活動が活発になる仕組みを検討	✧ 活動の意義・効果等を紹介する取組みを強化する。 ✧ まちづくりの裾野を広げる取組み、男性が活躍できる取組みを進める。 ✧ 交付金のあり方や行政の各部門の関わり方など、地域活動が活発になる仕組みを検討する。
	（3）問題意識・使命感を持った職員の育成と職場全体の底力の向上	✧ 「たかはま地域経営実践塾」「若手職員成長支援研修」などにより、積極的・主体的に行動できる職員の育成に取り組む。 ✧ 職員の地域活動への参加を促進し、知識・能力・資質の向上など、職員力を“現場”で磨く。

汗かき　みんなのまちを創ろう

【中期】

中期の目標	「こんなことに取り組みます！」	平成 26 年度アクションプラン
目標（1） まちへの想いを育み、未来を切り開くチカラを高めます	①市民と行政がお互いにコミュニケーションをとり、市政運営やまちづくりに関する情報発信・情報交換を活発に行います。	No.1　情報発信パワーアップ事業〔総合政策G〕NEXT３
	②市民・地域・行政がそれぞれの得意分野を活かし、ともにまちづくりに取り組んでいくための環境づくりを進めます。	No.2　みんなでまちづくり事業〔総合政策G〕 No.3　まちづくり応援事業〔総合政策G〕NEXT4
	③“大家族”のみんなが幸せな生活を送ることができるよう、高浜市で暮らす日常の「心地よさ」を高める取組みを進めます。	No.4　アシタのたかはま研究事業〔総合政策G〕NEXT1
	④現場を第一に考え、問題意識を持って課題に積極的に取り組むため、職員力を高めます。	No.5　職員力ステップアップ推進事業〔人事G〕
目標（2） 将来を見据えた計画的・効果的な財政運営を行います	①市税収入など、自主財源の確保に努めます。	No.6　受益者負担適正化事業〔財務G〕（使用料・手数料等の見直し） No.7　市税等徴収事業〔税務G〕
	②限られた財源を重点的、効果的に配分するとともに、継続して行政サービスが提供できるよう、既存サービスの見直しに取り組みます。	No.8　行政サービス点検事業〔財務G〕
	③将来の公共施設のあり方について、市民とともに問題意識を共有しながら、具体的な検討を進めます。	No.9　公共施設あり方計画推進事業〔行政G〕NEXT２ No.10　市庁舎あり方公募事業〔行政G〕NEXT２ No.11　高浜小学校整備事業〔学校経営G〕NEXT２
	④市民の知りたい、市民に知ってもらいたい財政情報を積極的に提供します。	No.12　わかりやすい財政情報提供事業〔財務G〕
	⑤市民ニーズを反映した行政サービスを展開し、行政サービスの向上につながるものについては、国・県・近隣市などをはじめとした関係機関との広域的な連携を行います。	No.13　定住自立圏推進事業〔総合政策G〕

※課題「行政評価システムの検証・見直し」は、基本計画【中期】冊子の第４章「計画の進行管理」に反映

※NEXT とは、吉岡初浩市長が掲げている「アシタのチカラ NEXT」を示しています。

【前期】

前期の目標	前期の取組みから見えてきた課題	今後の取組みの方向性
目標（4） 学びを通して人づくりを進め、夢と希望につなげます	（1）生涯学習基本構想の総合的な推進	✧ まちの魅力を将来に語り継いでいくため、子ども～高齢者、外部の視点も取り入れながら、市民とともにまちの魅力を掘り起こし、高浜市の財産としてまとめ、学び合い・語りあっていく総合的な取組み（タカハマ！まるごと宝箱）を進める。
	（2）夢や希望を膨らませる取組み	✧ 「子ども・若者成長応援事業」（例：市民ムービー「タカハマ物語」第２弾）などを通して、子どもたちの関わりを増やし、想いが実現する「達成経験」を味わえる機会を増やしていく。
	（3）スポーツを通じた健康づくり・生きがいづくり	✧ スポーツ・レクリエーション機会の創出や（仮称）高浜緑地の整備など、誰もが気軽にスポーツ・レクリエーションに参加できる環境づくりを、NPO 高浜スポーツクラブやスポーツ推進委員など、関係者と連携して進める。
目標（5） 心たくましく健やかに育つ教育環境をつくります	（1）幼保小中教職員による「12 年間の学びや育ちをつなげる」意識の向上	✧ 「高浜市がめざす子どもの姿」を明確にし、幼保小中教職員一人ひとりが「12 年間の学びと育ちをつなげる」という意識をもてるような取組みを進める。 ✧ 幼稚園・保育園、小学校、中学校といった異校種間の「タテのつながり」を密にし、個々の子どもたちの視点に立ち、発達段階に応じた教育を行う。
	（2）学校の想いと地域の想いのマッチング	✧ 園・学校、家庭、地域といった「ヨコのつながり」を密にし、「本音の語り合い」と「本物の信頼関係」で学校と地域をつなぎ、地域ぐるみで子どもたちの成長を見守り、手助けする“みんなの学校”をつくっていく。
	（3）高浜小学校のあり方	✧ 「公共施設のあり方計画」を踏まえ、事業手法の検討など、整備準備を進める。
目標（6） 人のつながりやぬくもりの中で、子育ち・子育てを支えます	（1）多様化する保育ニーズへの支援施策の展開	✧ ニーズに即した保育サービスを充実するため、「子ども・子育て支援事業計画」の策定及びその実施に取り組む。
	（2）子育て活動団体の継続的な活動支援	✧ 行政と子育て支援団体等の活動の連携が図れるよう、活動情報を一元的に収集・発信するポータルサイトを活用する。
	（3）地域等による子どもの自主・自立の支援	✧ 平成 27 年度子ども・子育て支援法本格実施に合わせ、学校のグランド以外にも児童センターや公園など地域の財を活用し、子どもたちが自由に遊べるような環境づくりに努める。

せて　豊かな未来を育もう

【中期】

中期の目標	「こんなことに取り組みます！」	平成 26 年度アクションプラン
目標（3） 人と学びの輪を広げ、まちのチカラを育みます	①地域の人たちがさまざまな先生役となり、地域の人たち（特に、子ども）の成長に関わる機会を増やします。	№14　学びによるつながり創出事業〔文化スポーツG〕
	②地域ぐるみで未来に羽ばたく人材を育て、まちづくりの活力を高めます。	№15　未来にはばたく人材育成事業〔文化スポーツG〕
	③地域の良さ（歴史、文化、伝統など）を学び、地域の魅力の掘り起こし・情報発信を進めます。	№14　学びによるつながり創出事業〔文化スポーツG〕
	④誰もが楽しめるスポーツ・レクリエーションの機会をつくり、市民交流の場を充実します。	№16　高浜緑地グランド整備事業〔文化スポーツG〕 №17　生涯スポーツ推進事業〔文化スポーツG〕
目標（4） 学校・家庭・地域が連携を深め、12 年間の学びや育ちをつなげます	①　幼稚園・保育園、小学校、中学校の垣根を越えて、教職員同士が現場をふまえた情報交換を密にするとともに、子どもたちの交流を行うなど、発達段階に応じた教育を実践します。	№18　異校種間連携推進事業〔教育センターG〕
	②　各園、各学校の特色や高浜市のまちの資源（ひと・もの・こと）を活かした「高浜カリキュラム（生活・総合的な学習の時間）」を市内全園・全校で実施します。	№19　高浜カリキュラム推進事業〔教育センターG〕NEXT８
	③高浜市として育てていきたい子どもの姿を策定し、地域ぐるみで子どもの成長を見守り、手助けする教育基盤づくりを進めます。	№20　めざす子ども像推進事業〔教育センターG〕
	※課題「高浜小学校のあり方」に対する対応は、目標（２）に記述（№11　高浜小学校整備事業〔学校経営G〕NEXT２）	
目標（5） 地域ぐるみで子育ち・子育てを支えます	①「高浜市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、多様で柔軟な保育サービスの提供など、子育てニーズを適切なサービスに結びつける取組みを進めます。	№21　保育サービス充実事業〔こども育成G〕NEXT６ №22　子育て・家族支援ネットワーク事業〔こども育成G〕
	②子どもの想いを理解し、子どもの視点に立って、成長を支援できる大人を増やす取組みを行い、「地域の子育て力」を高めます。	№22　子育て・家族支援ネットワーク事業〔こども育成G〕 №23　子どもと大人のパートナーシップ推進事業〔文化スポーツG〕
	③世代間や異年齢同士の子どもの交流機会を豊かにし、子どもの自主性・社会性を育む居場所を充実します。	№24　居場所充実事業〔こども育成G〕NEXT７

【前期】

前期の目標	前期の取組みから見えてきた課題	今後の取組みの方向性
目標（7） まちの成長を支えるエンジンとして、産業を元気にします	（1）地場産業への支援	✧ 東北地域を販売促進の重点地区と位置付け、販路拡大、三州瓦ＰＲ事業等の支援を行う。 ✧ 愛知県陶器瓦工業組合が実施する災害復興住宅三州瓦採用補助制度に対し支援を実施する。
	（2）工業用地創出	✧ 工業立地を具現化するために、関係機関との調整、事業計画や事業スケジュール、また、体制を整備する。
	（3）事業者ニーズの把握	✧ 現行の新がんばる事業者応援制度を見直すとともに、事業者ニーズを踏まえた新たな制度を検討する。 ✧ 経営者からの声を踏まえ、営業力の強化を目的としたコンサルティング費用の一部補助を新メニューとして追加する。
目標（8） 地域に根ざした新たなビジネスの芽を育みます	（1）地域資源をつなぎ、まちの魅力を高める取組み	✧ 市民や各種団体、関係機関と連携し、おもてなしの心を育みながら、「見る」「食べる」「買う」「楽しむ」場としての魅力に磨きをかけ、誘客や消費に結びつくような取組みを進める。 ✧ 地場産業である三州瓦を高浜の観光と繋げる取組みとして、「高浜市観光案内所 ONI－House（オニハウス）」において三州瓦の展示・紹介、瓦製品の販売を実施していく。
	（2）コミュニティ・ビジネス運営の支援	✧ 創業しようとする事業者に対し、継続的に事業運営できるよう、創業支援制度の周知を図るとともに、アドバイスや更なるネットワーク形成などにより、フォローアップを行う。 ✧ 事業者への「地域ぐるみ」の応援が必要であることから、「地域」「企業」「行政」がそれぞれのセクターの垣根を越えて創業者との連携促進を図る機会を設け、理念や方向性のマッチングを行う。
目標（9） みんなでまちをきれいにします	（1）目標が達成された姿「地球環境に対する意識が高まっています。」について	✧ 愛知県が平成 25 年６月に策定した「環境基本計画」に準じた環境学習を実施する。 ✧ 愛知県が実施する「Ｓｔｏｐ温暖化教室」を小中学校と連携して実施する。
	（2）目標が達成された姿「資源化が進み、ごみの量が減っています。」について	✧ 資源化を推進するため、小売店での回収、分別収集特別拠点の増設など資源回収の機会を増加させる。 ✧ リサイクル率向上に効果のある集団回収について調査し、そのあり方を見直す。 ✧ 高浜エコハウスで実施している「分別大相撲」を小学校で開催し、子どもから大人へ啓発できる仕組みづくりを行う。
	（3）目標が達成された姿「ごみの散乱がなく、きれいで住みやすいまちになっています。」について	✧ ごみの散乱がひどい、ごみステーションなどの現場について、定期巡回、スポットライト設置など、地域と連携して試行的対策を実施し、効果のあるものについて広く展開する。 ✧ 不法投棄情報を公開する仕組み、不法投棄防止に効果のある防犯カメラの設置を検討する。 ✧ 各学校が行っている学校周辺の清掃活動を広く周知し、不法投棄の抑制を図る。

やる気を活かせるまちをつくろう

【中期】

中期の目標	「こんなことに取り組みます！」	平成 26 年度アクションプラン
目標（6） 産業を活性化して、まちを元気にします	①行政内部や関係機関との連携を強化し、新たな工業用地の創出や企業誘致を進めます。	№26　企業誘致事業〔企業支援G〕 NEXT11
	②事業者・関係機関との連携を強化し、現場のニーズをふまえ、産業の活性化、雇用の安定に向けた取組みを進めます。	№27　がんばる事業者応援事業〔企業支援G〕NEXT10 №28　地場産業振興事業〔地域産業G〕 №29　農業経営安定推進事業〔地域産業G〕
	③コミュニティ・ビジネスの創業や持続的な経営に向けた支援を行います。	№30　コミュニティ・ビジネス創出支援事業〔地域産業G〕
	④自然・伝統文化・施設などの地域資源をつなぎ、市民・事業者・関係機関とともにまちの魅力を高め、賑わいの創出や交流人口の拡大に向けた取組みを行います。	№31　観光推進事業〔地域産業G〕 NEXT12
目標（7） みんなでまちをきれいにします	①「高浜市みんなでまちをきれいにしよう条例」を推進します。	№32　みんなでまちをきれいにします事業〔市民生活G〕
	②「高浜市ごみ処理基本計画」に基づき、紙ごみのリサイクルをはじめ、ごみの減量化に取り組みます。	
	③地域・学校・事業者・関係機関と連携した環境美化活動、環境保全活動に取り組むこととし、不法投棄対策を積極的に進めます。	

【前期】

前期の目標	前期の取組みから見えてきた課題	今後の取組みの方向性
目標（10） ハーモニーを奏でる快適な都市空間をつくります	（１）長期的な視点と国・県等との連携	✧ 国・県等の関係機関と連携しながら整備を進める。 ✧ 市の財政状況を踏まえ、計画的に整備を進める。
	（２）長寿命化に向けた取組み	✧ 安全性の徹底調査・点検を踏まえて長寿命化対策計画を策定し、「点検→診断→措置→記録」といったメンテナンスサイクルを確立する。
	（３）行政バスの広域利用の促進	✧ 刈谷・知立・高浜・東浦の各市町の拠点間を結ぶバス創設について、研究を行う。
目標（11） 自然豊かな魅力あふれる憩いの場を守り、育てます	（１）高浜緑地上部の有効活用方法の検討	✧ 地域のボランティア団体や各種スポーツ団体等と連携・調整し、住民意見を踏まえながら、地域の方々に愛され、老若男女の憩いの場となるような緑地の整備・維持管理を検討する。
	（２）高浜ベイサイド計画（高浜貯木場跡地）活用方法の検討	✧ 「高浜ベイサイド計画」（平成 21 年３月改訂）におけるイベント・マリンレクリエーションゾーンの事業推進に関する調査検討を進める。
	（３）「自分たちの公園・水辺・緑」という愛着意識を高める取組み	✧ 広報や回覧、チラシなどで、公園づくり等の活動内容・効果等の発信、各種団体への働きかけなどを丁寧に行うことにより、愛着意識を高め、参加者・利用者拡大につなげていく。
目標（12） 安全・安心が実感できる基盤づくりを進めます	（４）防災に対する意識改革	✧ モデル地区を設定し、地域の特性に応じた総合防災訓練を実施し、その内容を検証・見直ししながら、実践力のある訓練につなげる。 ✧ HUG（避難所運営ゲーム）やクロスロードなど、様々な手法により防災行動力を高める取組みを進める。
	（５）防災教育の推進	✧ 教育委員会と防災担当部局が連携し、小中学生を対象とした防災教育の実施、学校防災の推進に向けた検討・調整を進める。
	（６）地域防犯力を高める取組み	✧ 防犯教室や防犯情報の発信などにより、自助意識を高める取組みを進める。 ✧ 地域や警察などと連携し、防犯パトロールやあいさつ運動、登下校時の見守りなどに取り組む。

やる気を活かせるまちをつくろう

【中期】

中期の目標	「こんなことに取り組みます！」	平成 26 年度アクションプラン
目標（8） ハーモニーを奏でる快適な都市空間をつくります	①住環境やライフラインの整備など、都市空間の快適さや安全性、魅力を高める取組みを進めます。	№33　公共下水道事業（汚水）〔上下水道G〕 №34　水道事業〔上下水道G〕
	②安全・安心・便利に移動できるよう道路を整えるとともに、公共交通の利用も促進します。	№35　いきいき号循環事業〔市民生活G〕 №36　市道港線整備事業〔都市整備G〕 №37　道路点検・保全事業〔都市整備G〕
	③公園・緑地、街路樹や水辺空間などを地域の財産としてとらえ、地域と連携しながら、特性を活かした憩いの場づくりを進めます。	№38　緑のあるまちづくり事業〔都市整備G〕
目標（9） 安全・安心が実感できる地域づくりを進めます	①市民・地域・事業者・関係機関と連携した総合的・機動的な防災体制を構築し、減災対策や実践を想定した取組みを強化します。	№39　防災ネットワーク推進事業〔都市防災G〕NEXT9
	②防災教育や防犯講話などを通じて、「自らの安全は自ら守る（自助）」、「地域の安全は地域で守る（共助）」という意識を高める取組みを強化します。	№39　防災ネットワーク推進事業〔都市防災G〕NEXT9 №41　防犯対策推進事業〔都市防災G〕 №42　交通安全啓発事業〔都市防災G〕
	③「高浜市みんなで犯罪のないまちにしよう条例」をふまえて、地域・警察・関係機関と連携し、事件・事故の未然防止活動を推進します。	№41　防犯対策推進事業〔都市防災G〕
	④市民一人ひとり、特に高齢者や子どもの交通事故防止に向けた取組みを進めます。	№42　交通安全啓発事業〔都市防災G〕

【前期】

前期の目標	前期の取組みから見えてきた課題	今後の取組みの方向性
目標（13） 一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます	（１）障がい者施策	✧ 緊急時や親亡き後も不安なく暮らせるよう、平成 28 年度を目途に、民間活力を導入し施設を整備するとともに、障がい者についての地域における理解や交流を促進するため、平成 26 年度から地域の中で交流できる場や活動機会を創出する。
	（２）地域福祉の担い手養成と活躍の場の創出	✧ 地域で困りごと支援を行っていただく方の計画的な養成に取り組むとともに、具体的な支援の場を提供するなど、実際に活躍していただく場の創出に取り組む。
	（３）認知症への対応	✧ 生活機能評価の実施など、認知症を早期発見・早期支援する取組みを進める。 ✧ 相談支援体制の充実に向け、権利擁護推進体制を構築する。 ✧ 計画的に「認知症サポーター」養成講座を実施する。
目標（14） 一人ひとりの元気と健康づくりを応援します	（１）いきいき健康マイレージ制度の充実	✧ 一人ひとりが役割を持って生きがいが見つけられるよう、健康自生地をはじめとした、新たな担い手の発掘や育成に取り組むとともに、制度を見直して充実を図る。
	（２）地域医療ネットワークの利用促進	✧ より多くの市民に地域医療ネットワークを利用していただけるよう、その仕組みや利便性をＰＲする。
	（３）高齢者の居場所及び生きがいづくり	✧ 介護保険制度の見直しに先駆け、要支援サービスが受けられなくなる人たちの受け皿づくりとして、また、高齢者が自分らしく生きがいを持ち、尊厳のある活発な暮らしを実現させるために、生涯現役のまちづくりを推進していく。

つながり 100 倍ひろげよう

【中期】

中期の目標	「こんなことに取り組みます！」	平成 26 年度アクションプラン
目標（10） 一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます	① 地域福祉に対する理解を広め、困りごとを抱える方の支援などを行うボランティアの発掘・養成や、継続的に活動できる場を創出します。	№43 認知症サポーター養成事業〔保健福祉G〕NEXT13 №44 地域の「つながり・支え合い」応援事業〔地域福祉G〕
	②障がい者が地域の中で交流できる場や活動機会を創出します。	№45 障がい者の地域生活応援事業〔地域福祉G／介護保険・障がいG〕
	③判断能力が不十分な人の権利や生活を守るため、権利擁護センターを設置し、適切な相談・支援が行える体制を整えます。	№46 権利擁護推進事業〔福祉まるごと相談G〕NEXT13
	④こども発達センターを充実し、子どもとその家族をより確かな形で支えます。	№47 こども発達センター運営事業〔保健福祉G〕NEXT16
	⑤育児・介護・健康・生活困窮など、不安を抱えた方への総合的な相談支援体制を整えます。	№48 生活困窮者自立支援事業〔地域福祉G〕NEXT15
	⑥高齢者の地域密着型施設や障がい者施設を、民間活力の導入により整備します。	№50 認知症グループホーム整備補助事業〔介護保険・障がいG〕NEXT13 №51 障がい者施設整備等補助事業〔介護保険・障がいG〕
	⑦災害時に備え、要援護者の実態把握と地域ぐるみの支援体制を構築します。	№52 災害時要援護者支援事業〔地域福祉G〕
	※課題「認知症への対応」に対する対応は、目標（11）に記述（№54 認知症早期発見事業〔保健福祉G〕NEXT13）	
目標（11） 一人ひとりの元気と健康づくりを応援します	①高齢者の閉じこもり予防、外出の機会となる居場所づくりと、担い手としての活躍の場を創出する生涯現役のまちづくりを進めます。	№53 生涯現役のまちづくり事業〔生涯現役まちづくりG〕NEXT14
	②今後、増加が予測される認知症に対応するため早期発見、早期支援を重点的に行う初期集中支援体制を構築します。	№54 認知症早期発見事業〔保健福祉 G〕NEXT13
	③運動機能や認知機能など市民一人ひとりのライフステージやニーズに応じた多様な健康づくり、介護予防や認知症予防のプログラムを構築します。	№55 健康づくり応援事業〔生涯現役まちづくりG〕
	④多様な医療ニーズに対応するため、かかりつけ医と病院の病診連携の促進により地域医療を充実します。	№56 地域医療振興事業〔保健福祉G〕

MEMO

5

参考資料

市民との協働による基本計画【前期】の進行管理にあたり
中心的役割を果たした「第６次高浜市総合計画推進会議」の
足跡をまとめました。

（１）基本計画【前期】の進行管理体制

■総合計画推進会議の役割

〔所掌事務〕　（「第６次高浜市総合計画推進会議設置規則」より）

１）総合計画の進行管理に関する事項
２）その他総合計画の推進に関する事項

- 市民会議の進め方について協議する。
- 市民会議の各分科会の取り組み等について情報共有する。
- 市民会議の各分科会から上がってくる「点検・確認結果」や「アクションプランの実行成果」などをとりまとめ、市長へ提言する。
- 市民会議の各分科会同士の連携のあり方について検討する。
- 推進会議と市民会議のあり方自体を検討する。

〔構成〕
１２名

中川幾郎会長（帝塚山大学大学院教授）、
市民会議各分科会の市民リーダー等、副市長

〔開催回数等〕

	開催回数	傍聴者数
平成 23 年度	６回	７６名
平成 24 年度	７回	９２名
平成 25 年度	４回	４６名
平成 26 年度	３回	１１名＋α
合計	２０回	２２５名＋α

基本計画【前期】進行管理体制

第6次高浜市総合計画推進会議

〔所掌事務〕（「第６次高浜市総合計画推進会議設置規則」より）

１）総合計画の進行管理に関する事項

２）その他総合計画の推進に関する事項

具体的には→**市民会議と行政をつなぐパイプ役**

- 市民会議の進め方について協議する。
- 市民会議の各分科会の取り組み等について情報共有する。
- 市民会議の各分科会から上がってくる「点検・確認結果」や「目標達成に向けての取組成果」をとりまとめ、市長へ報告する
- 市民会議の各分科会同士の連携のあり方について、検討する。
- 推進会議と市民会議のあり方自体を検討する。

〔構成〕12 名

中川幾郎会長（帝塚山大学大学院教授）、
市民会議各分科会の市民リーダー等、副市長

提言書の提出・取組成果等の報告

検討結果を報告
求めに応じて関係職員が出席

行政

市長

【部長会】

- 総合計画基本計画（前期）の進行管理に向けた総合調整を行う。
- 推進会議が行う調査・審議に対し、求めに応じた報告や資料等の作成を行う。

提案･報告

職員
メンバーへ
指示

「点検･確認結果」や「取組成果」等を持ち寄る

高浜市の未来を創る市民会議

〔構　成〕　公募市民、市職員
〔会議体〕　全体会、分科会（計９分科会）
〔役　割〕

【点検･確認】

<H23>
- 目標の達成に向けて、事業の見直し・改善に対する意見･アイデアを出し合う。

<H24･H25>
- 施策評価シート(内部評価)をもとに、今後の取組みに対するアイデアを出し合う。

【目標達成に向けた取組み】

- 前期基本計画に掲げた目標の達成に向けて、検討･実行すべきテーマを設け、市民と行政が協働で取り組む。

参画･協働･情報共有

参画･協働･情報共有

市民の役割

★ 前期基本計画に掲げた施策（14 目標）の達成度や、アクションプランの実効性を点検・確認する。

★ 前期基本計画に掲げた目標の達成に向けた取組み（検討・実行）を行政と協働で行う。

行政の役割

★ 分科会運営の取り回しを行う。（積極的な発言、市民意見を引き出す工夫）

★ 総合計画に掲げた目標の達成に向けて、取り組んできた事業概要を報告する。

★ 施策（14 目標）の内部評価の結果を市民会議に提示し、今後の取組みに対するアイデアをいただく。

（２）「第６次高浜市総合計画推進会議」のあしあと

【平成 23 年度】　市民とともに総合計画の進行管理を行う体制がスタート

開催回数：６回　　委員数：12 名　　傍聴者数（延べ）：76 名

回	日程	内容
第１回	６月 24 日（金）	１）会長・副会長の選任について ２）会議及び会議録の公開について ３）第６次高浜市総合計画推進会議の役割について ４）高浜市の未来を創る市民会議の今後の進め方について
第２回	８月 25 日（木）	１）高浜市の未来を創る市民会議　各分科会の「実行テーマ」について ２）高浜市の未来を創る市民会議の今後の進め方について ①第４回市民会議（9/1）プログラム（案） ②第５回市民会議（10/12）プログラム（案） ３）その他（行政評価システムの基本的な考え方について）
第３回	10 月　６日（木）	１）「第６次高浜市総合計画推進会議からの提言」について 半年間の総合計画の取組状況について、市民目線で点検･確認を行い、「目指したい姿」「現状･課題」「課題への対応策」を提言としてまとめた。 ２）高浜市の未来を創る市民会議の今後の進め方について ①第５回市民会議（10/12） 「まちづくりシンポジウムの企画案を考えよう」 ②第６回市民会議（11 月） 「総合計画を協働で実行しよう（１）」 ③第７回市民会議（12 月） 「総合計画を協働で実行しよう（２）」
第４回	12 月 12 日（月）	１）まちづくりシンポジウムの企画案について ２）施策評価シートのイメージについて ３）高浜市の未来を創る市民会議の今後の進め方について ①第７回市民会議（12 月 19 日） 「総合計画を協働で実行しよう（２）」 ②第８回市民会議（２月） 「事業アイデアの活用の方向性を共有しよう！」 ③第９回市民会議（３月） 「計画の実行成果を発表しよう！＆次へのアクション」

第５回	１月 26 日（木）	１）「第６次高浜市総合計画推進会議からの提言」に対する行政の考え方と対応について 推進会議からの提言に対して、アクションプランへの反映状況、提言反映に向けての考え方･方向性、提言を踏まえた来年度の具体的な取組み(案)について、各担当部署の職員から発表した。 ２）高浜市の未来を創る市民会議の振り返りについて ３）「まちづくりシンポジウム」について ４）その他（高浜市行政評価上半期評価結果について）
第６回	３月 19 日（月）	１）「高浜市の未来を創る市民会議」のあり方について

【平成 24 年度】　施策評価元年 ～点検・確認作業を本格実施～

開催回数：7回　　委員数：12 名　傍聴者数（延べ）：92 名

回	日程	内容
第１回	４月１６日（月）	１）「第６次高浜市総合計画推進会議」「高浜市の未来を創る市民会議」の役割とスケジュールについて ２）平成２４年度「高浜市の未来を創る市民会議」の運営の方向性（案）について ３）平成２４年度「高浜市の未来を創る市民会議」の分科会編成（案）について
第２回	６月２１日（木）	１）施策評価（点検・確認）の進め方について ①「施策評価」について ②点検・確認スケジュールについて ③基本計画の施策に対する「市民意識調査」結果、「みんなで目指すまちづくり指標」一覧について ④「施策評価シート」 市民会議及び行政の担当一覧について ⑤「施策評価シート」の見方について ⑥「点検・確認シート」について ２）「高浜市の未来を創る市民会議」（第２回）の進め方について
第３回	７月１２日（木）	１）施策評価シート（内部評価）の発表について 各担当部署の職員から、施策評価シートに基づき、施策評価（内部評価）結果を発表した。 ＜発表内容＞ ・「みんなで目指すまちづくり指標」「市民意識調査」結果 ・「みんなで目指すまちづくり指標」「市民意識調査」結果に対する現状分析（要因・課題等） ・これまでの主な取組みと成果 ・課題と今後の取組みの方向性 ・目標達成に向けた具体的なアイデア ２）「高浜市の未来を創る市民会議」（第３回）の進め方について

第４回	１０月１０日（水）	１）「第６次高浜市総合計画推進会議からの提言」について 点検･確認結果を「目標達成に向けての具体的なアイデア」（アイデア内容、アイデアの理由･背景）として、提言にとりまとめた。 ２）高浜市の未来を創る市民会議の今後の進め方について
第５回	１２月１７日（月）	１）「高浜市の未来を創る市民会議」各分科会における下期の取り組みテーマと進捗状況について
第６回	１月２８日（月）	１）「第６次高浜市総合計画推進会議からの提言」に対する行政の考え方・対応について 推進会議からの提言に対して、「実施状況」「具体的な実施内容」「提言を受けての想い」などを、各担当部署の職員から発表した。 ２）「総合計画の目標達成に向けた取り組み」について ３）高浜市の未来を創る市民会議の振り返りについて ４）高浜市の未来を創る市民会議の進め方について
第７回	３月２２日（金）	１）「高浜市の未来を創る市民会議」の運営について ①「総合計画推進会議」と「総合計画審議会」の役割について ②平成 25 年度「高浜市の未来を創る市民会議」スケジュールについて ２）「高浜市の未来を創る市民会議」のあり方について

【平成 25 年度】　前期基本計画の総仕上げに向けて

開催回数：４ 回　　委員数：12 名　傍聴者数（延べ）：　46 名

回	日程	内容
第１回	５月８日（水）	１）平成２５年度「高浜市の未来を創る市民会議」の分科会編成について ２）「高浜市の未来を創る市民会議」のスケジュールについて ３）「高浜市の未来を創る市民会議」キックオフについて
第２回	７月 24 日（水）	１）市民意識調査結果について ２）「施策評価シート」（内部評価）の発表について 各担当部署の職員から、施策評価シートに基づき、施策評価（内部評価）結果を発表した。 ＜発表内容＞ ・「みんなで目指すまちづくり指標」「市民意識調査」結果 ・「みんなで目指すまちづくり指標」「市民意識調査」結果に対する現状分析（要因・課題等） ・これまでの主な取組みと成果 ・課題と今後の取組みの方向性 ・中期基本計画に向けて、今後、力を入れる取組み ３）各分科会の取り組みテーマの情報共有
第３回	９月 25 日（水）	１）分科会での「点検・確認」結果を発表 点検・確認を行い、市民目線の感想や想い、中期基本計画につなげていくためのアイデアをとりまとめた。 ２）分科会活動状況について情報共有 ３）第２回市民会議の進め方について
第４回	２月 13 日（木）	１）分科会の進捗状況について ２）前期基本計画総括の進め方について 前期基本計画の総括の進め方について、スケジュール（イメージ）をお示しした。 ３）「アシタのたかはま研究所」の立上げについて

【平成 26 年度】　前期の取組み・成果・課題を総括
～中期につなげていくために～

開催回数：３ 回　　委員数：12 名　傍聴者数（延べ）： 11 名＋α

回	日程	内容
第１回	４月 10 日（木）	１）推進会議の３年間の総括について ２）前期基本計画総括の進め方について
第２回	７月 25 日（金）	１）市民意識調査結果について ２）「施策評価シート」（内部評価）の発表について 各担当部署の職員から、施策評価シートに基づき、平成 25 年度の取組みに対する行政の内部評価結果を発表した。 ＜発表内容＞ ・「みんなで目指すまちづくり指標」「市民意識調査」結果に対する現状分析（要因・課題等） ・これまでの主な取組みと成果 ・課題と今後の取組みの方向性 ↓ 平成25年度の取組みや成果、目標達成状況などを踏まえ、よかった点・改善すべき課題、今後の取組みにつながるアイデアなどのご意見をいただいた。 ３）前期基本計画の総括　冊子構成（案）とフォーマット（案）について
第３回	８月 26 日（火）	１）「施策評価シート」の確定について 「第6次総合計画推進会議による点検・確認結果」をとりまとめた。 ２）前期基本計画の総括（内部総括）の発表について 各担当部署の職員から、前期基本計画の総括（内部総括）を発表した。 ＜発表内容＞ ・「みんなで目指すまちづくり指標」「市民意識調査」結果に対する現状分析（要因・課題等） ・これまでの主な取組みと成果 ・課題と今後の取組みの方向性 ３）前期基本計画の総括の確定について 前期3年間を振り返り、取組みや成果、目標達成状況などを踏まえ、よかった点・改善すべき課題、今後の取組みにつながるアイデアなどのご意見をいただき、「第6次総合計画推進会議によるコメント」欄をとりまとめた。

（３）行政による「総合計画推進会議」３年間の振り返り

【前期の推進会議の成果】

①総合計画を市政経営の中心に据え、市民とともに進行管理を行う体制が整った

・総合計画をまちづくりの共通目標として経営の中心に据え、市民とともに目標の達成状況を点検・確認し、事業の見直し・改善を行うようになり、実効性が担保される仕組みが整った。

②市民目線のアイデアを反映し、よりよい行政サービスにつなげることができた

・基本計画に掲げる施策（14目標）について様々な観点から点検・確認し、推進会議でとりまとめた市民目線の意見・アイデアを、アクションプランや実行中の事業等に反映することにより、よりよい行政サービスにつなげることができた。

③行政活動に緊張感を保つことができた

・各担当部署の部長・グループリーダー等が出席し、施策評価（内部評価）結果や、推進会議からの提言に対する行政の考え方・対応の発表を行うなど、常に市民の目を意識する環境にあり、行政活動に緊張感を保つことができた。

④職員力の強化につながった

・取組内容・成果、今後の課題・方向性、改善のアイデア等について、わかりやすく資料にまとめたり、行政としての想いを市民の前でしっかりと述べる機会を持つことにより、職員力が高まった。

・市民とともに、総合計画の目標達成に向けてともに取り組んでいくという意識・意欲が高まった。

【中期の推進会議に向けての課題】

①市民と濃密な議論を行うための工夫

・「市民とともに進行管理を行う」という精神を引き継いでいくため、中期の推進会議の運営にあたっては、部会制の導入など、濃密な議論を行うことができる工夫が必要である。

②市民にとってわかりやすい資料

・「施策評価シート」などの資料が市民にとってわかりやすいものとなっているか、不断の見直しが必要である。

③「みんなで目指すまちづくり指標」の見直しの仕組み

・施策の進捗や情勢の変化などにより、「みんなで目指すまちづくり指標」を計画期間の途中であっても、推進会議での議論を経て、必要に応じて見直すことができるような仕組みを設けていく必要がある。

■ 事務局 ■

高浜市役所　企画部　総合政策グループ

TEL0566-52-1111（内線 365）　FAX0566-52-1110

E-mail　seisaku@city.takahama.lg.jp

ＵＲＬ　http://www.city.takahama.lg.jp